



## 第 2 章

# 高齢者を取り巻く状況



# 1 高齢者の状況

## (1) 人口の推移

### ① 高齢者人口

本市の人口は2020（令和2）年9月30日現在、97,908人となっており、減少傾向が続いています。

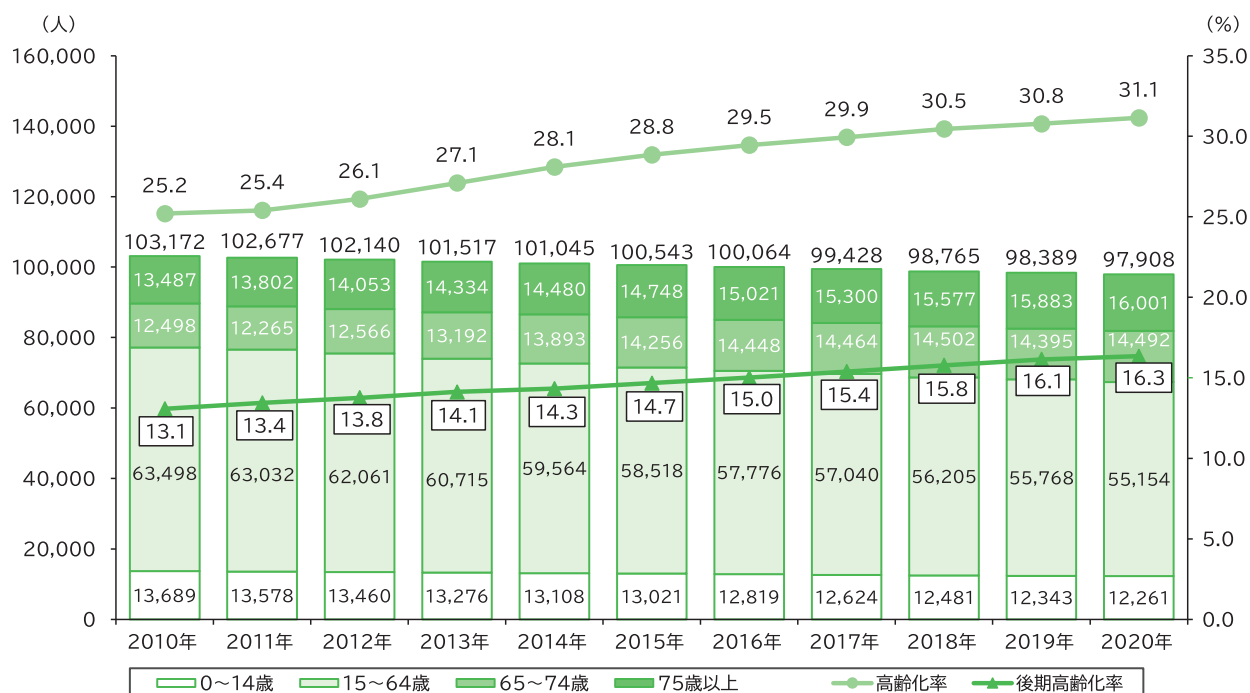
年齢階層別でみると、年少人口（0～14歳）は緩やかな減少傾向となっています。高齢者人口（65歳以上）は増加し続けており、2020（令和2）年9月30日現在、30,493人、高齢化率は31.1%と2015（平成27）年から2.3ポイント上昇し、後期高齢化率は、16.3%と2015（平成27）年から1.6ポイント上昇しています。

### ■ 人口の推移

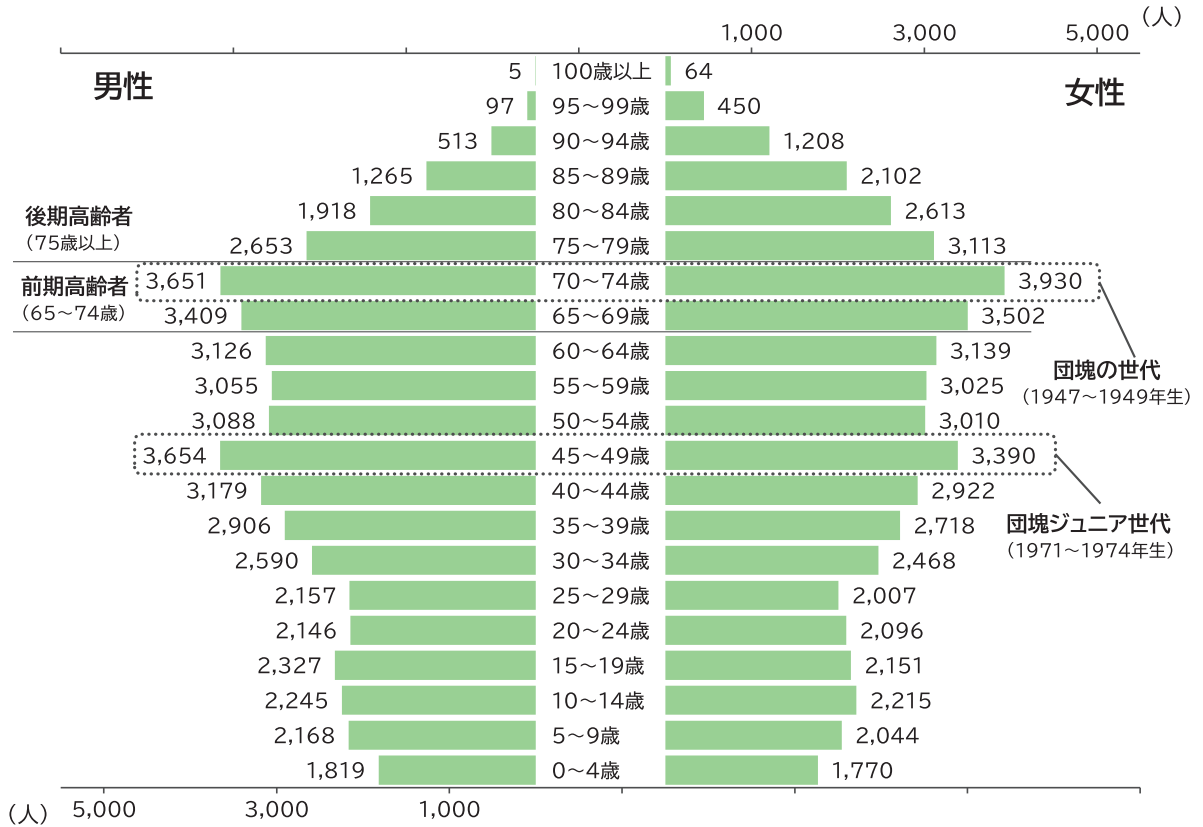
単位：人

	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2020年 全国	2020年 静岡県
総人口	100,543	100,064	99,428	98,765	98,389	97,908	127,138,033	3,708,556
0～14歳	13,021	12,819	12,624	12,481	12,343	12,261	15,528,262	453,518
15～64歳	58,518	57,776	57,040	56,205	55,768	55,154	76,122,894	2,167,441
65歳以上	29,004 28.8%	29,469 29.5%	29,764 29.9%	30,079 30.5%	30,278 30.8%	30,493 31.1%	35,486,813 27.9%	1,087,483 29.3%
65～74歳	14,256 14.2%	14,448 14.4%	14,464 14.5%	14,502 14.7%	14,395 14.6%	14,492 14.8%	17,272,436 13.6%	527,302 14.2%
	14,748 14.7%	15,021 15.0%	15,300 15.4%	15,577 15.8%	15,883 16.1%	16,001 16.3%	18,214,377 14.3%	560,181 15.1%

（資料）住民基本台帳（各年9月30日現在）、全国・静岡県は2020（令和2）年1月1日現在  
 ※全国、静岡県では、年齢不詳者がいるため、年齢別人口の合計と総人口は一致しない



## ■人口ピラミッド



2020（令和2）年9月30日現在

### ②年齢3区分別人口比率の推移

本市の年少人口（0～14歳）の人口比率は減少傾向にあり、2020（令和2）年9月30日時点では12.5%で、2015（平成27）年の13.0%と比べて0.5ポイント減少しています。

一方、高齢者人口（65歳以上）の人口比率は増加傾向にあり、2020（令和2）年9月30日現在では31.1%で、2015（平成27）年の28.8%から2.3ポイント増加しています。

### ■年齢3区分別人口比率の推移

単位：人

	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2020年 全国	2020年 静岡県
総人口	100,543	100,064	99,428	98,765	98,389	97,908	127,138,033	3,708,556
0～14歳 (年少人口)	13,021 13.0%	12,819 12.8%	12,624 12.7%	12,481 12.6%	12,343 12.5%	12,261 12.5%	15,528,262 12.2%	453,518 12.2%
15～64歳 (生産年齢人口)	58,518 58.2%	57,776 57.7%	57,040 57.4%	56,205 56.9%	55,768 56.7%	55,154 56.3%	76,122,894 59.9%	2,167,441 58.4%
65歳以上 (高齢者人口)	29,004 28.8%	29,469 29.5%	29,764 29.9%	30,079 30.5%	30,278 30.8%	30,493 31.1%	35,486,813 27.9%	1,087,483 29.3%

（資料）住民基本台帳（各年9月30日現在）、全国・静岡県は2020（令和2）年1月1日現在  
 ※全国、静岡県では、年齢不詳者がいるため、年齢別人口の合計と総人口は一致しない

## (2) 高齢者のいる世帯の推移

高齢者のいる世帯数は年々増加し、2020（令和2）年では19,906世帯となり、総世帯数の52.0%を占めています。

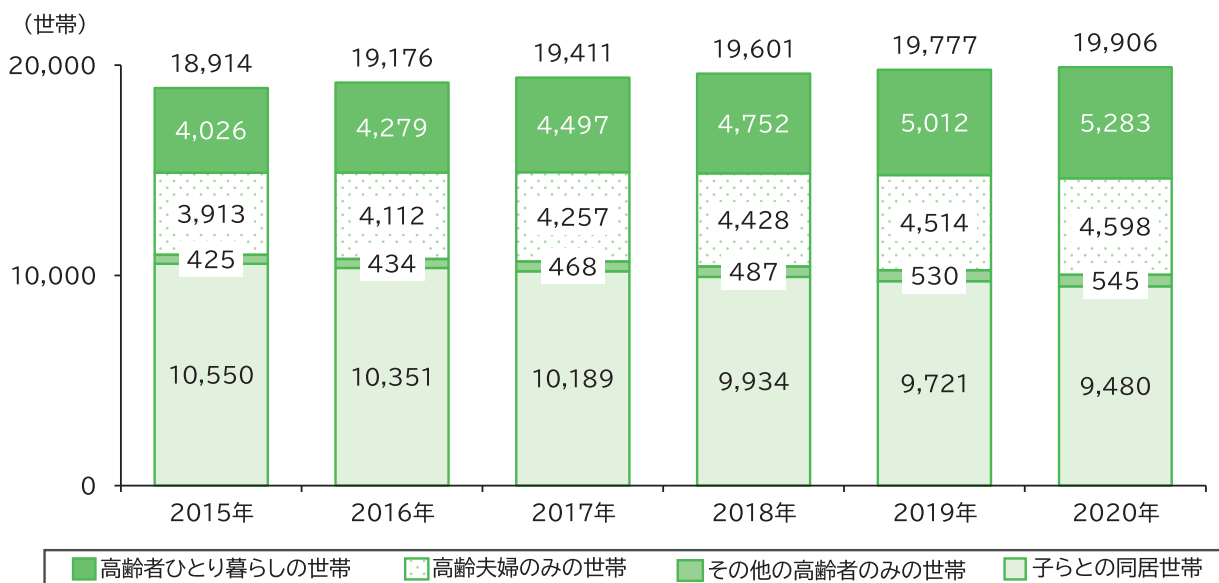
高齢者のいる世帯の構成割合について、2015（平成27）年と2020（令和2）年と比較すると、高齢者ひとり暮らしの世帯は11.0%から13.8%と2.8ポイント上昇し、高齢者夫婦のみの世帯は10.7%から12.0%と1.3ポイント上昇しています。

### ■ 高齢者のいる世帯の推移

単位：世帯

	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)
総世帯数	36,520	36,950	37,336	37,580	37,942	38,300
高齢者のいる世帯	18,914	19,176	19,411	19,601	19,777	19,906
	51.8%	51.9%	52.0%	52.2%	52.1%	52.0%
高齢者ひとり暮らしの世帯	4,026	4,279	4,497	4,752	5,012	5,283
	11.0%	11.6%	12.0%	12.6%	13.2%	13.8%
高齢夫婦のみの世帯	3,913	4,112	4,257	4,428	4,514	4,598
	10.7%	11.1%	11.4%	11.8%	11.9%	12.0%
その他の高齢者のみの世帯	425	434	468	487	530	545
	1.2%	1.2%	1.3%	1.3%	1.4%	1.4%
子らとの同居世帯	10,550	10,351	10,189	9,934	9,721	9,480
	28.9%	28.0%	27.3%	26.4%	25.6%	24.8%

（資料）高齢者福祉行政の基礎調査（各年4月1日現在）



### (3) 要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数（第1号被保険者及び第2号被保険者の総数）は、介護予防・日常生活支援総合事業開始の影響により2015（平成27）年以降一時的に減少傾向にありましたが、2018（平成30）年には再び増加傾向に転じており、2020（令和2）年には4,314人となっています。

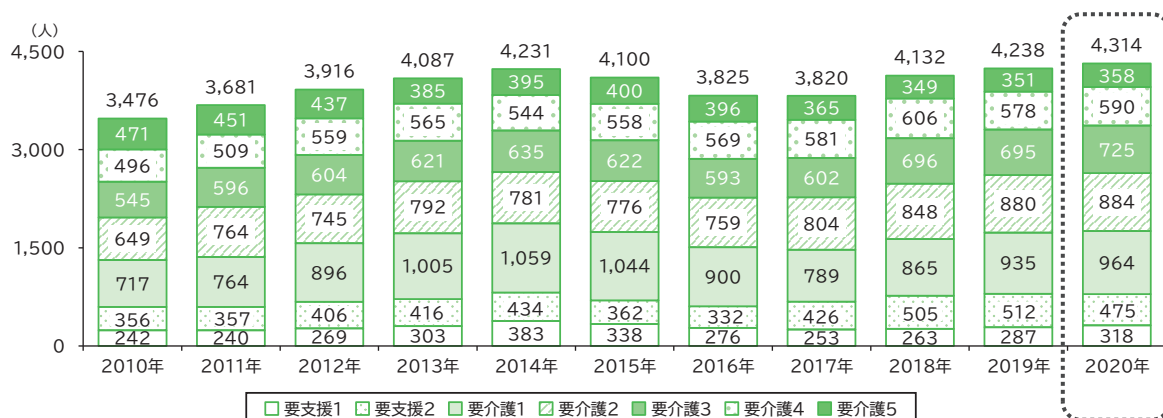
#### ■ 認定者数の推移

単位：人

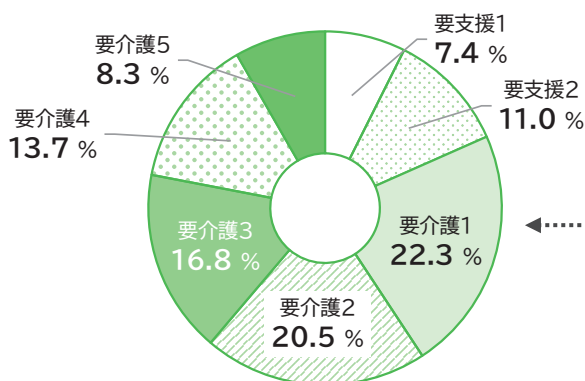
	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)
認定者数	4,100	3,825	3,820	4,132	4,238	4,314
要支援1	338	276	253	263	287	318
要支援2	362	332	426	505	512	475
要介護1	1,044	900	789	865	935	964
要介護2	776	759	804	848	880	884
要介護3	622	593	602	696	695	725
要介護4	558	569	581	606	578	590
要介護5	400	396	365	349	351	358

（資料）介護保険事務処理システム出力数値

#### ■ 要介護度別認定者数の推移



#### ■ 認定者の要介護度別内訳（2020（令和2）年）



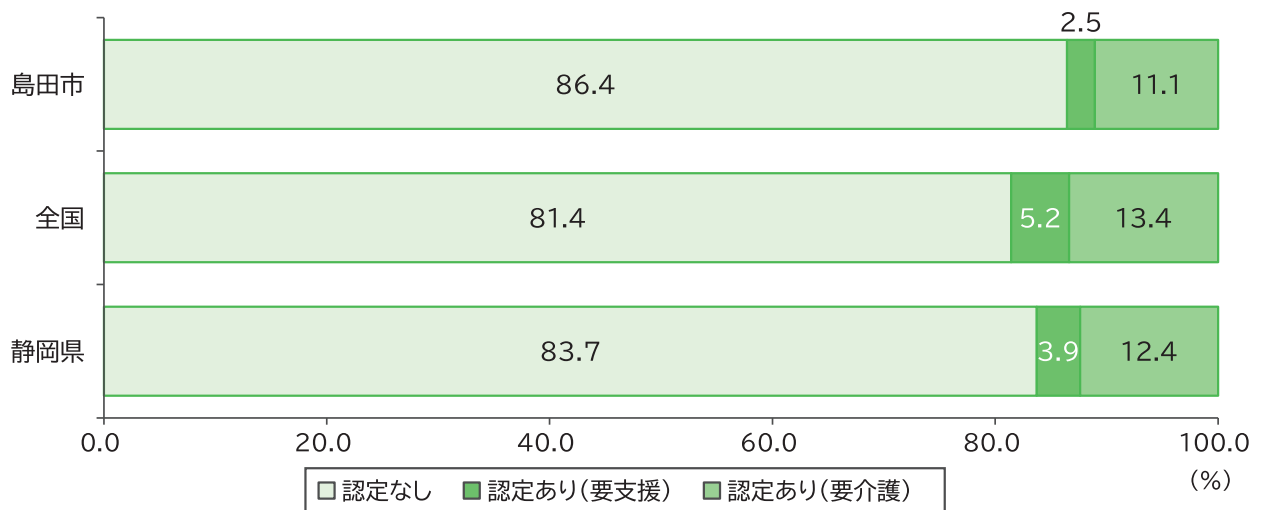
#### (4) 第1号被保険者の認定状況

第1号被保険者の認定率は、全国・静岡県と比較して低く、介護度別では、特に要支援1～要介護1の認定率が低くなっています。

##### ■ 介護度別認定率の比較

	認定なし	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
島田市	86.4%	1.0%	1.5%	3.0%	2.8%	2.3%	1.8%	1.1%
全国	81.4%	2.6%	2.6%	3.8%	3.2%	2.5%	2.3%	1.6%
静岡県	83.7%	1.8%	2.1%	3.9%	2.9%	2.3%	2.0%	1.3%

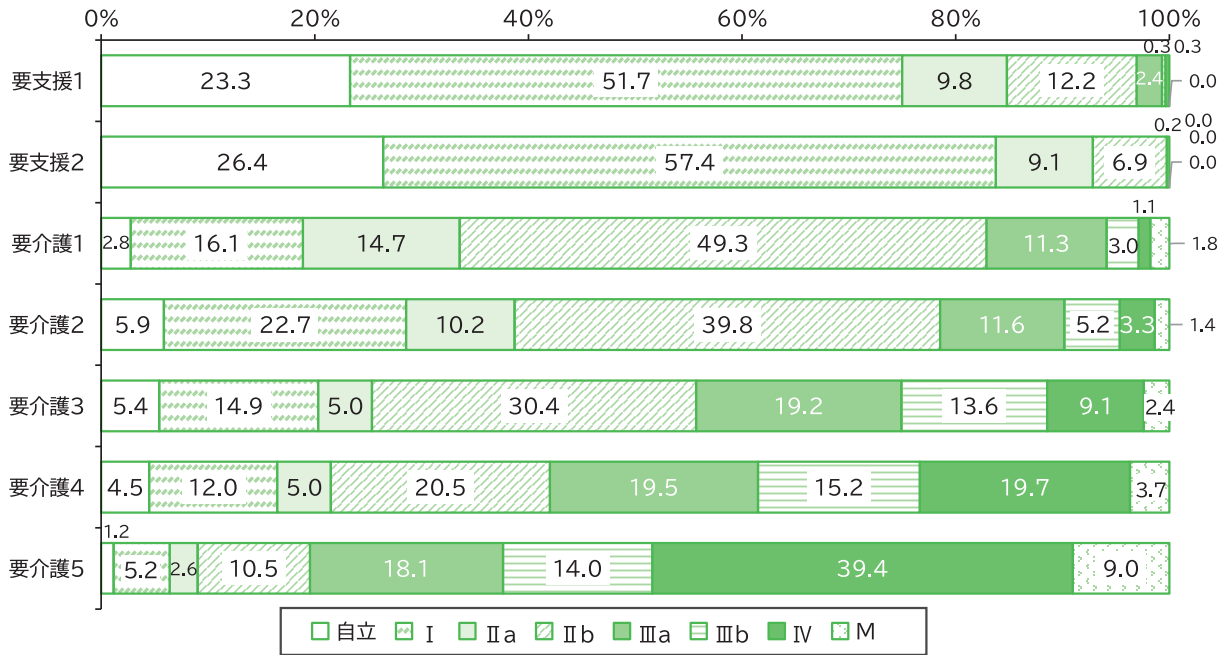
(資料) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報(2020(令和2)年9月末現在 暫定値)



## (5) 認知症高齢者の日常生活自立度の状況

認知症高齢者の日常生活自立度を認定区分別にみると、要支援1、2では、Ⅰが最も多く50%以上を占めています。要介護1から4では、Ⅱbが最も多くを占めますが、要介護度が上がるにつれ減少し、Ⅲa以上が増加しています。要介護4では、ⅡbからⅣまでが、それぞれ約2割を占め、要介護5では、Ⅳが39.4%と最も多くを占めています。

■ 認知症高齢者の日常生活自立度の状況（2020（令和2）年）



（資料）認定支援システム出力数値

ランク	判定基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
II a	家庭外で上記IIの状態が見られる。
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

（資料）厚生労働省「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について」

## 2 2025(令和7)年、2040(令和22)年の状況と課題

### (1) 人口の推計

本市の人口は、減少傾向のまま2025（令和7）年には94,472人となり、2040（令和22）年には80,935人となる予測です。

この間、生産年齢人口（15～64歳）割合は減少し、高齢化率と後期高齢化率は増加していきます。

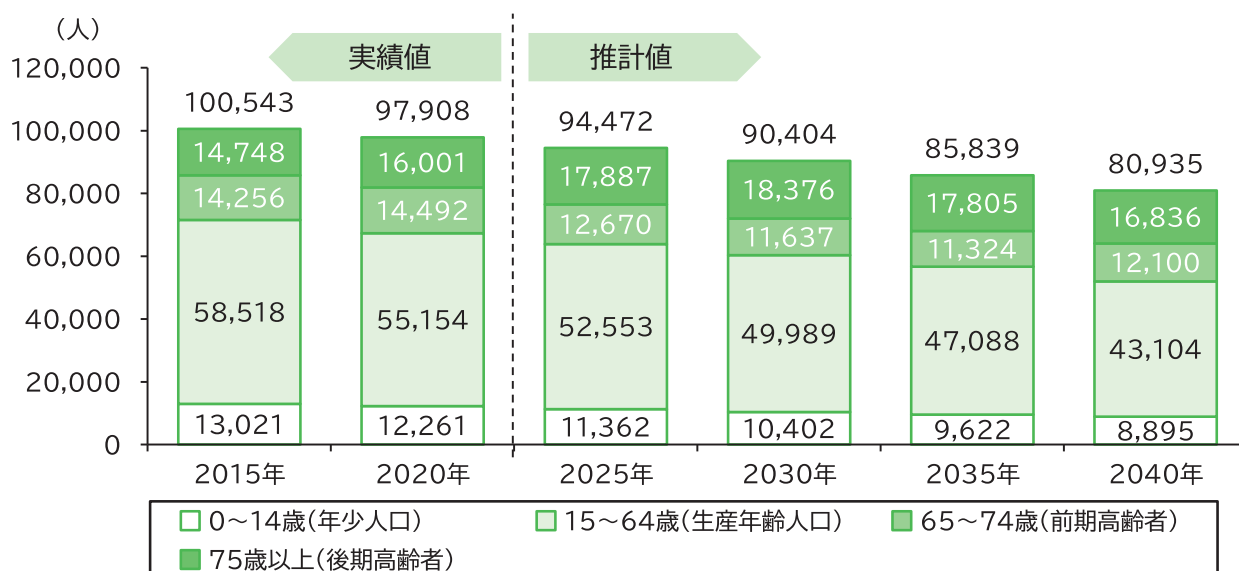
また、前期高齢者（65～74歳）の人数は、2020（令和2）年頃にピークを迎え、後期高齢者（75歳以上）は2030（令和12）年頃にピークを迎える予測です。

#### ■人口の推計

単位：人

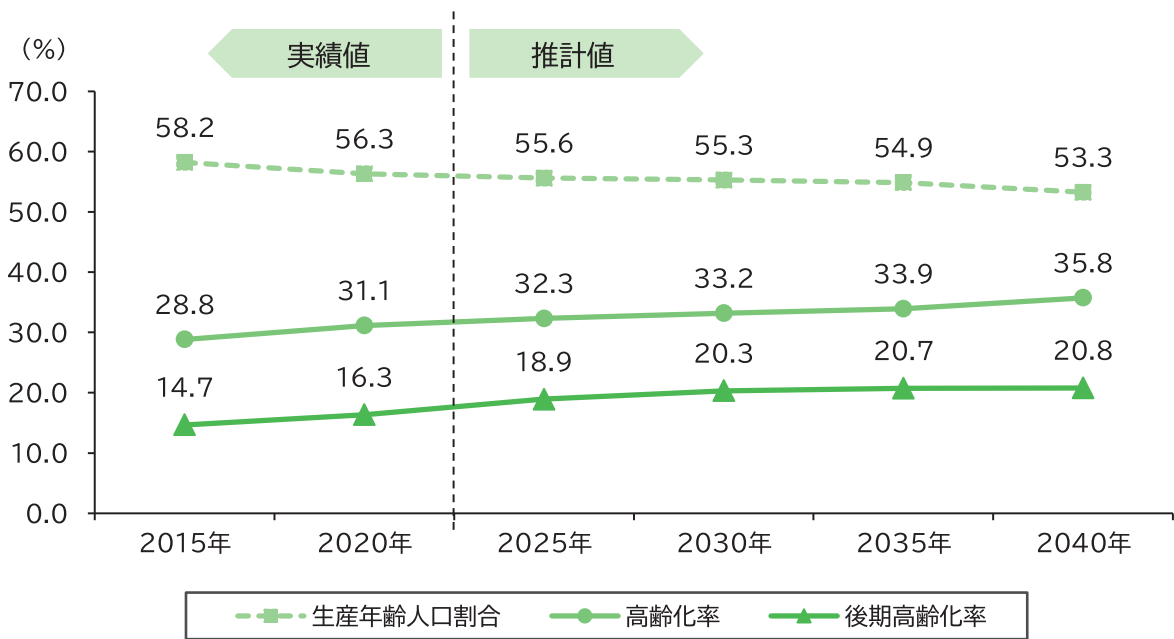
	実績値		推計値			
	2015年 (平成27年)	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)	2035年 (令和17年)	2040年 (令和22年)
総人口	100,543	97,908	94,472	90,404	85,839	80,935
0～14歳 (年少人口)	13,021 13.0%	12,261 12.5%	11,362 12.0%	10,402 11.5%	9,622 11.2%	8,895 11.0%
15～64歳 (生産年齢人口)	58,518 58.2%	55,154 56.3%	52,553 55.6%	49,989 55.3%	47,088 54.9%	43,104 53.3%
65歳以上 (高齢者人口)	29,004 28.8%	30,493 31.1%	30,557 32.3%	30,013 33.2%	29,129 33.9%	28,936 35.8%
65～74歳 (前期高齢者)	14,256 14.2%	14,492 14.8%	12,670 13.4%	11,637 12.9%	11,324 13.2%	12,100 15.0%
75歳以上 (後期高齢者)	14,748 14.7%	16,001 16.3%	17,887 18.9%	18,376 20.3%	17,805 20.7%	16,836 20.8%

(資料) 住民基本台帳（各年9月30日現在）の実績値を基にコーホート変化率法により算出

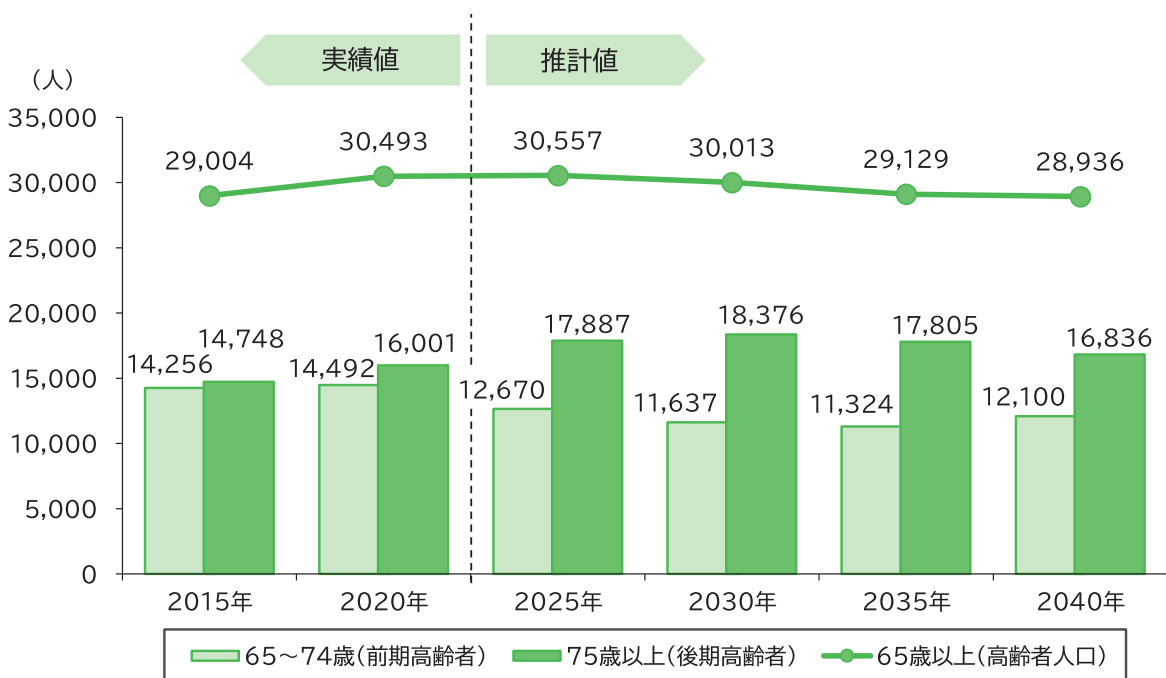




■生産年齢人口割合、高齢化率、後期高齢化率の推計



■前期高齢者（64～75歳）、後期高齢者（75歳以上）の推計



## (2) 要支援・要介護認定者の推計

要支援・要介護認定者数の推計にあたっては、人口推計を基に、2021（令和3）年から2023（令和5）年までの3年間及び2025（令和7）年、2040（令和22）年の要支援・要介護認定者（第1号被保険者・第2号被保険者の総数）を推計しました。

要支援・要介護認定者数は増加傾向にあり、2023（令和5）年に4,508人となり、2025（令和7）年には4,621人、2040（令和22）年には、5,009人となる予測です。

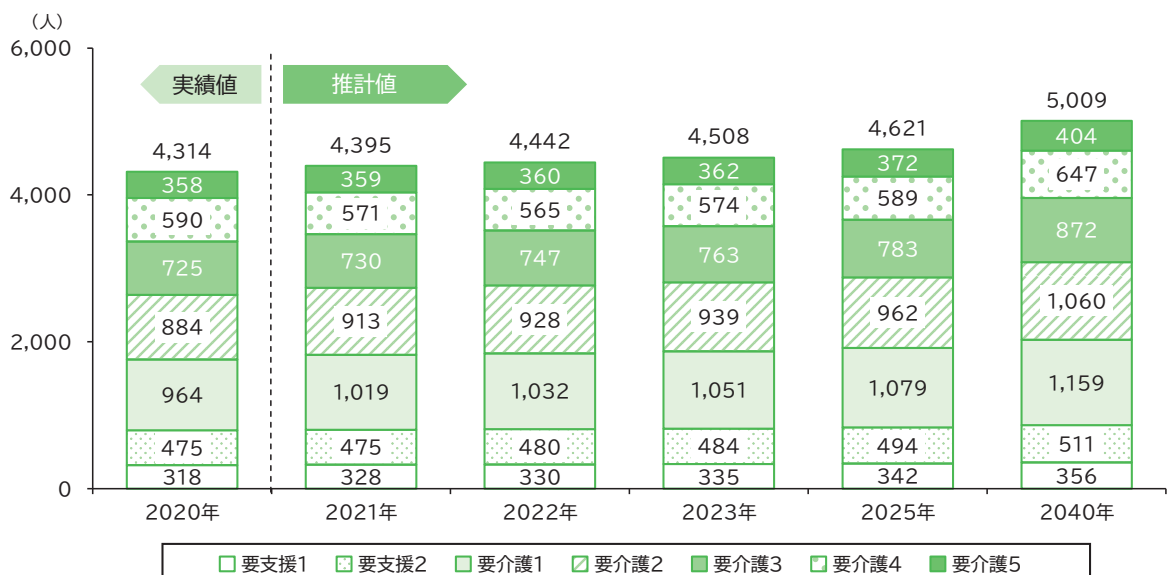
認定区分別にみると、高齢化にともないいずれの認定区分においても増加していますが、2040（令和22）年の認定者に占める要介護1から要介護3までの認定者数が大きく増加することが予想されます。

### ■ 認定者数の推計

単位：人

	実績値	推計値				
	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)	2025年 (令和7年)	2040年 (令和22年)
認定者数	4,314	4,395	4,442	4,508	4,621	5,009
要支援1	318	328	330	335	342	356
要支援2	475	475	480	484	494	511
要介護1	964	1,019	1,032	1,051	1,079	1,159
要介護2	884	913	928	939	962	1,060
要介護3	725	730	747	763	783	872
要介護4	590	571	565	574	589	647
要介護5	358	359	360	362	372	404

（資料）見える化システム出力数値

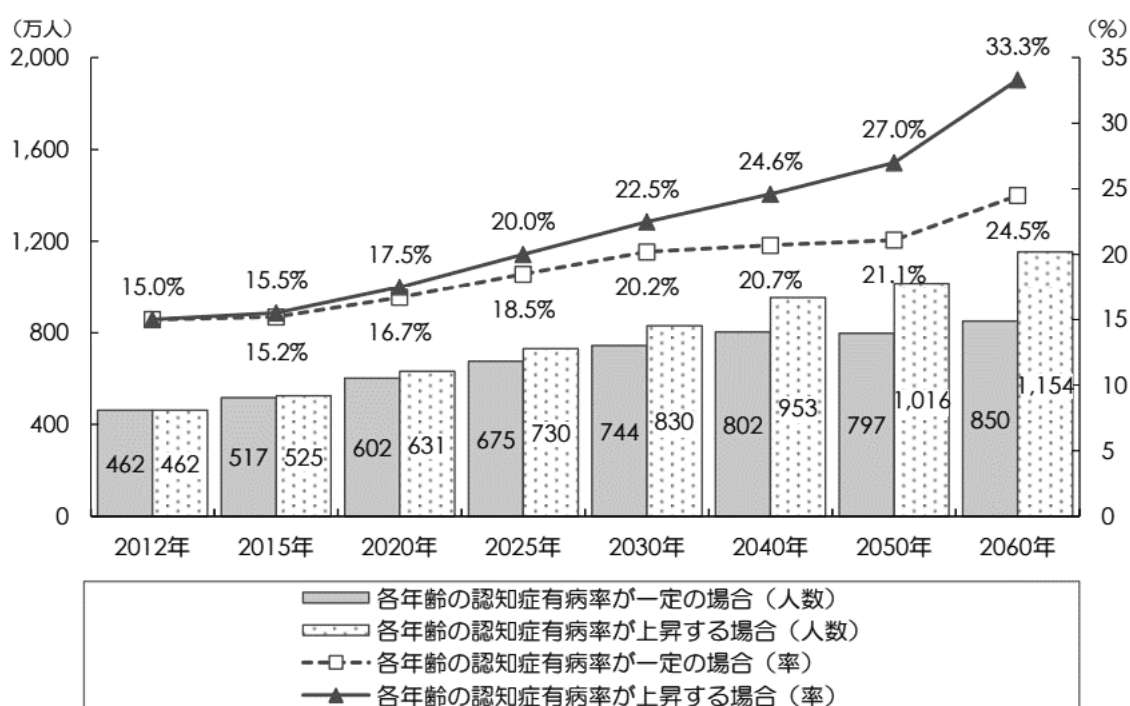


### (3) 認知症高齢者数の推計

平成29年版高齢社会白書（内閣府）によると、65歳以上の高齢者の認知症患者数と有病率の将来推計は、2012（平成24）年は認知症患者数が462万人と、65歳以上の高齢者の約7人に1人（有病率15.0%）であったのに対し、2025（令和7）年には約5人に1人になるとの推計もあります。

この推計方法を本市にあてはめると、2025（令和7）年には約5,700人、2040（令和22）年には約6,000人（認知症有病率が一定の場合。認知症有病率が上昇する場合は2025（令和7）年に約6,100人、2040（令和22）年に約7,100人）の認知症患者がいることが予想されます。

#### ■【参考】65歳以上の認知症患者数と有病率の将来推計（国）



※長期の断続的な認知症の有病率調査を行っている福岡県久山町研究データに基づいた、

- ・各年齢層の認知症有病率が、2012（平成24）年以降一定と仮定した場合
- ・各年齢層の認知症有病率が、2012（平成24）年以降も糖尿病有病率の増加により上昇すると仮定した場合

（久山町研究からモデルを作成すると、年齢、性別、生活習慣（糖尿病）の有病率が認知症の有病率に影響することがわかった。本推計では2060（令和42）年までに糖尿病有病率が20%増加すると仮定した。）

（資料）「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」より作成  
（2014（平成26）年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学二宮教授）

#### (4) ひとり暮らし高齢者数の推計

ひとり暮らし高齢者数の推計にあたっては、高齢者数に占めるひとり暮らし高齢者数の割合の実績と人口推計で算出した高齢者数をもとに推計しています。

高齢者数に占めるひとり暮らし高齢者数は増加傾向にあり、2040（令和22）年では5,652世帯と高齢者数の約2割がひとり暮らしであることが予想されます。

##### ■ひとり暮らし高齢者数の推計

単位：人

	実績値	推計値			
	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)	2035年 (令和17年)	2040年 (令和22年)
高齢者数	30,493	30,557	30,013	29,129	28,936
65～74歳	14,492	12,670	11,637	11,324	12,100
75歳以上	16,001	17,887	18,376	17,805	16,836
ひとり暮らし高齢者数	5,283	5,483	5,593	5,574	5,652
高齢者比	17.3%	17.9%	18.6%	19.1%	19.5%
65～69歳	975	1,046	1,037	1,013	1,012
70～74歳	1,093	1,107	1,151	1,162	1,189
75～79歳	894	916	929	923	933
80～84歳	898	922	928	917	923
85歳以上	1,423	1,492	1,548	1,559	1,595
(再掲) 65～74歳	2,068	2,153	2,188	2,175	2,201
(再掲) 75歳以上	3,215	3,330	3,405	3,399	3,451


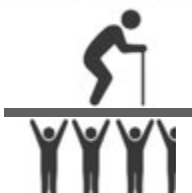

## (5) 2025（令和7）年、2040（令和22）年に予想される課題

2025（令和7）年には、団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）となり、2040（令和22）年には、団塊ジュニア世代が前期高齢者となり、2042（令和24）年には、高齢者人口がピークになると予測されています。

本市の人口推計をみると、今後も高齢化率は増加し、生産年齢人口（15～64歳）の割合は減少するため、生産年齢人口だけでは高齢者を支えていくことができなくなると予想されます。

そのため、高齢者のうち特に支援や介護が必要になる割合が増える後期高齢者（75歳以上）を支えられる側とし、支える側を20歳から74歳の成人としたバランスの推移は次のとおりとなります。

### ■ 支えられる側（75歳以上）と支える側（20～74歳）のバランス

	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2040年 (令和22年)
75歳以上の高齢者 1人に対する 20～74歳の人数	 <b>4.07人</b>	 <b>3.40人</b>	 <b>3.07人</b>
高齢化の動向	団塊の世代は 前期高齢者	団塊の世代は 後期高齢者	団塊ジュニア世代は 前期高齢者

2020（令和2）年時点で支えられる側（75歳以上）1人に対して支える側（20～74歳）が4.07人である現状に対して、2025（令和7）年には0.67人減少し3.40人、2040（令和22）年には1人減少し3.07人の予測となっています。

現在、国では、医療、介護、年金などの社会保障制度の改革を進めていくことに加え、地域で支え合う体制の整備を進めています。近年、人口減少の進行や家族のかたちが多様化したことによる新たな課題の解決のため、高齢、障害、ひとり親、生活困窮などの制度の一体的かつ包括的な支援体制の充実が求められます。

本市においては、地域において「医療」「介護」「予防」「住まい」「生活支援」を一体的に取り組む「地域包括ケアシステム」の推進とともに、地域住民の意識の醸成を図っています。そして、2025（令和7）年、2040（令和22）年に備え、地域で抱える複合的な問題を解決するために、さまざまな福祉分野の横断的な取り組みや地域団体、関係機関等との連携強化による社会福祉提供体制のさらなる推進が求められます。

### 事例紹介 しまトレで元気な生活を続けましょう

しまトレは、介護予防に効果的な「しまだ市っ歌りげんき体操」と「しぞ〜かでん伝体操」の総称で、「島田を元気にする体操（トレーニング）」の略称です。2016（平成28）年度から推進を開始し、今では市内各地の多くの公会堂などで住民主体で実施されています。

島田市スポーツ推進委員会が作成した「しまだ市っ歌りげんき体操」は、島田市歌に合わせて体を大きく伸びやかに動かす体操です。全身の筋肉をほぐして日常生活に必要な筋力やバランス力などの向上を目的とした体操です。

静岡市が作成した「しぞ〜かでん伝体操」は、日常生活に必要な筋力の維持・向上を目的とした体操です。リハビリテーション専門職が中心となって作成しているため、とても効果的に体操ができます。

また、しまトレの効果は体操による筋力やバランス力などの維持・向上だけではなく、各地の公会堂などで実施されることにより、外出機会の増加による閉じこもり防止や人とのコミュニケーションによる認知症予防にも効果が期待されます。

市では、さらなるしまトレの実施拡大に向けてさまざまな支援を実施し、誰もが歩いて行ける場所での実施につながるよう努めます。

加えて、介護予防について普及啓発も実施し、若いうちから介護予防の重要性を理解し、地域全体で高齢者を支えられる地域づくりを目指します。



#### いろいろな体操をしまトレと併せてやってみましょう

しまトレを継続して実施する手助けとなるように、その他にもさまざまな体操等のDVDを作成しています。

2019（令和元）年度には、日常生活で使う筋力の向上や、肩・腰・膝の部位別の痛みの防止等を目的として「しまだ茶っかりながいき体操」を作成、2020（令和2）年度には、口腔環境の維持・改善を目的として「しまだ歯っかり健口体操」を作成しました。

そして、2021（令和3）年度には、高齢者の通いの場での活動に役立てていただくために、多種のレクリエーションを取り入れたDVDを作成予定です。



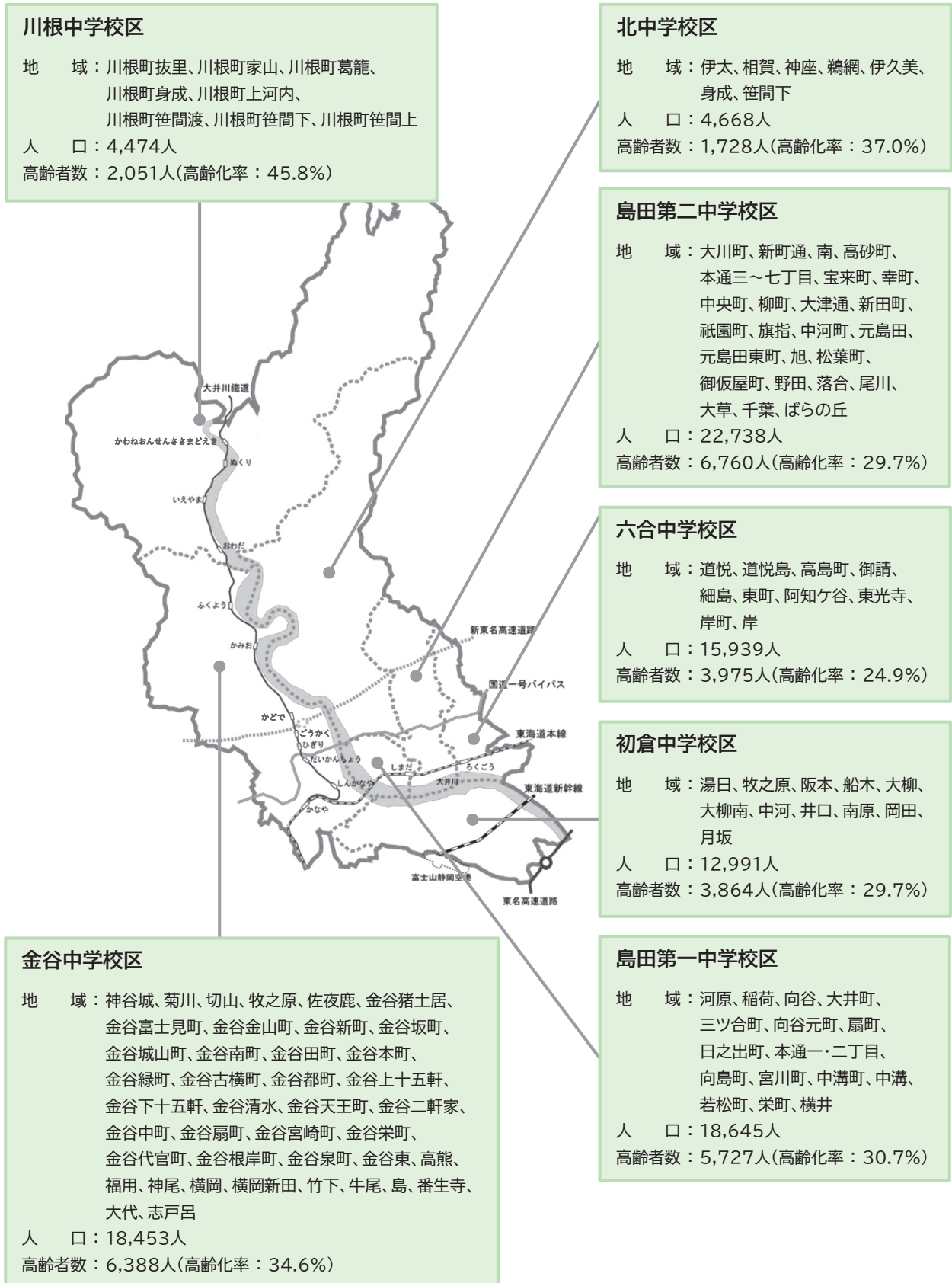
### 3 日常生活圏域の状況

#### (1) 日常生活圏域の設定

本市では、地理的条件、人口規模、交通事情、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備状況などを総合的に勘案し、引き続き島田第一中学校と北中学校の統合前の中学校区を基本として、7圏域を設定します。

##### ■ 日常生活圏域図





2020(令和2)年9月30日現在



## (2) 圏域別の状況

### <島田市全体>

人口	97,908人	65歳以上人口 (高齢化率)	30,493人 (31.1%)	要支援認定者数	785人
		75歳以上人口 (後期高齢化率)	16,001人 (16.3%)	要介護認定者数	3,481人

2020(令和2)年9月30日現在

#### 日常生活圏域の特徴

- 高齢化率は、最も高い川根中学校区と最も低い六合中学校区で20.9ポイント差
- 後期高齢化率は、最も高い川根中学校区と最も低い六合中学校区で15.3ポイント差
- 認定率は、最も高い川根中学校区と最も低い六合中学校区で4.3ポイント差
- 圏域別要介護度別認定者割合では、要支援1・2及び要介護1を合わせた「軽度者」の割合が最も高い圏域は六合中学校区であり、次いで島田第一中学校区、島田第二中学校区の順となっている。また、要介護4・5の重度者の割合が最も高い圏域は初倉中学校区であり、次いで川根中学校区、金谷中学校区の順となっている。

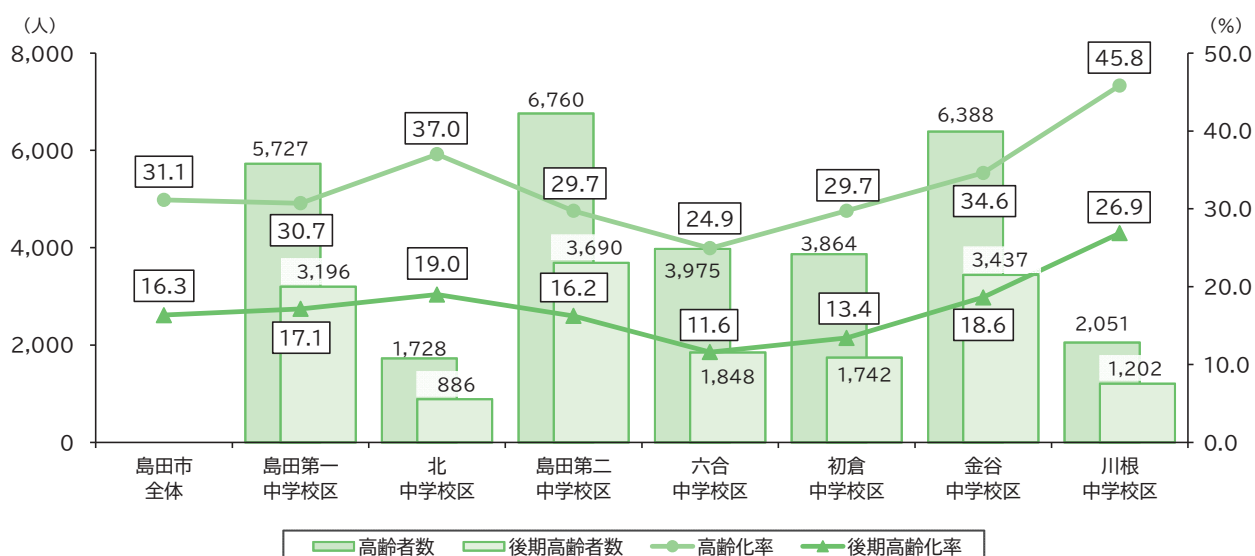
#### ■ 圏域別高齢者・認定者数 (割合)

単位：人

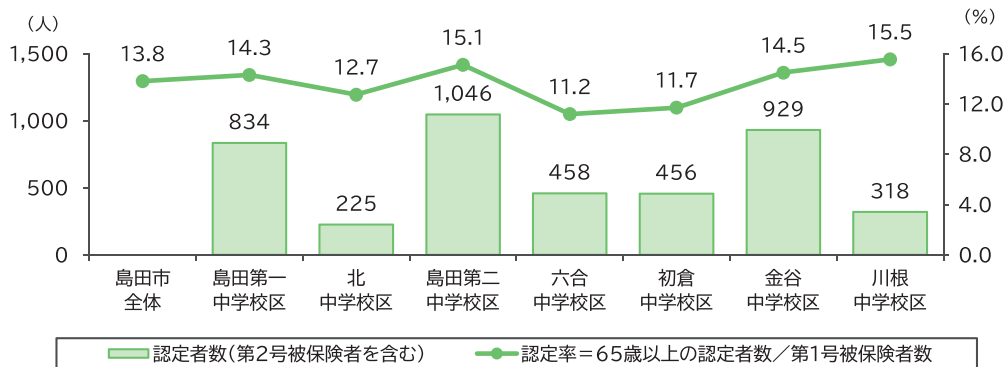
	島田市 全体	島田第一 中学校区	北 中学校区	島田第二 中学校区	六合 中学校区	初倉 中学校区	金谷 中学校区	川根 中学校区
人口	97,908	18,645	4,668	22,738	15,939	12,991	18,453	4,474
高齢者数	30,493	5,727	1,728	6,760	3,975	3,864	6,388	2,051
	31.1%	30.7%	37.0%	29.7%	24.9%	29.7%	34.6%	45.8%
後期 高齢者数 (75歳以上)	16,001	3,196	886	3,690	1,848	1,742	3,437	1,202
	16.3%	17.1%	19.0%	16.2%	11.6%	13.4%	18.6%	26.9%
認定者数	4,266	834	225	1,046	458	456	929	318
認定率	13.8%	14.3%	12.7%	15.1%	11.2%	11.7%	14.5%	15.5%

※認定者数には住所地特例者は含まない

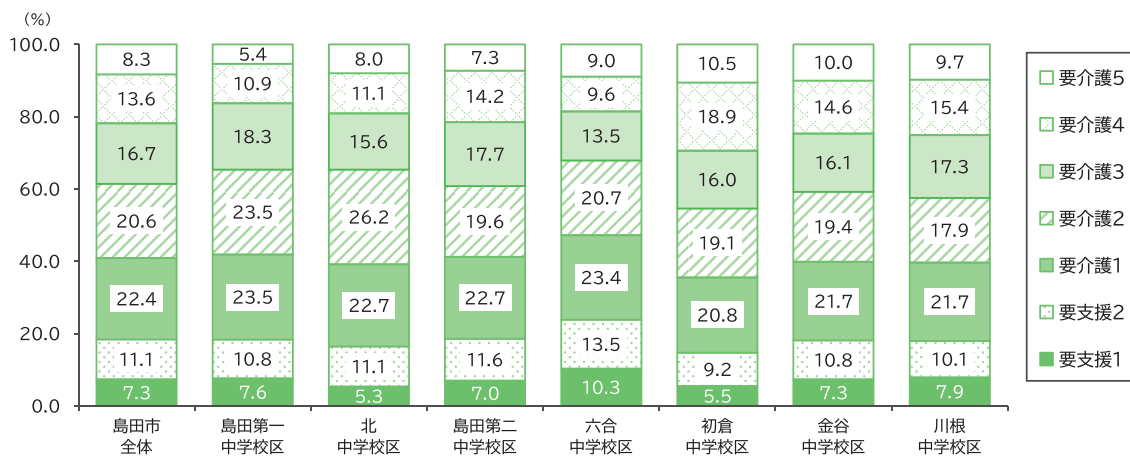
#### ■ 圏域別高齢者・後期高齢者数 (割合)



■ 圏域別認定者数（割合）



■ 圏域別要介護度別認定者割合



■ 介護（介護予防）サービス利用者数（2020(令和2)年10月審査分）

居宅サービス	人		利用率	地域密着型サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数			月利用人数	対認定者数	
訪問介護	403	9.4%	認知症対応型通所介護	14	0.3%		
訪問入浴介護	100	2.3%	小規模多機能型居宅介護	138	3.2%		
訪問看護	214	5.0%	認知症対応型共同生活介護	175	4.1%		
訪問リハビリテーション	31	0.7%	地域密着型通所介護	351	8.2%		
通所介護	790	18.5%					
通所リハビリテーション	295	6.9%	施設サービス		人		利用率
短期入所生活介護	285	6.7%	月利用人数	対認定者数			
短期入所療養介護	26	0.6%	介護老人福祉施設	405	9.5%		
居宅療養管理指導	471	11.0%	介護老人保健施設	464	10.9%		
特定施設入居者生活介護	222	5.2%	介護療養型医療施設	2	0.0%		
福祉用具貸与	1,590	37.3%	介護医療院	11	0.3%		

※利用率＝月利用人数／認定者数（第2号被保険者を含む）

■ 地域の資源

単位：か所

医療	医院・病院	53	介護	訪問介護	16
	薬局	54		訪問入浴介護	3
	歯科医院	36		訪問看護	5
地域	居場所	67		訪問リハビリテーション	1
	しまトレ	86		通所介護(地域密着型を含む)	37
	地域ふれあい	56		通所リハビリテーション	3
	老人クラブ	49		短期入所生活介護	8
	生活支援	3		短期入所療養介護	3
	認知症カフェ	8		認知症対応型共同生活介護	12
	自治会	68		小規模多機能型居宅介護	6
	町内会	174		認知症対応型通所介護	1
	公民館・公会堂	238		おでかけデイサービス	6

2020(令和2)年12月末日現在

# ① 島田第一中学校区

地域包括支援センター	高齢者あんしんセンター第一・北 (島田第一・北中学校区地域包括支援センター)
------------	---

人口	18,645人	65歳以上人口 (高齢化率)	5,727人 (30.7%)	要支援認定者数	153人
		75歳以上人口 (後期高齢化率)	3,196人 (17.1%)	要介護認定者数	681人

2020(令和2)年9月30日現在

**地理的特徴**

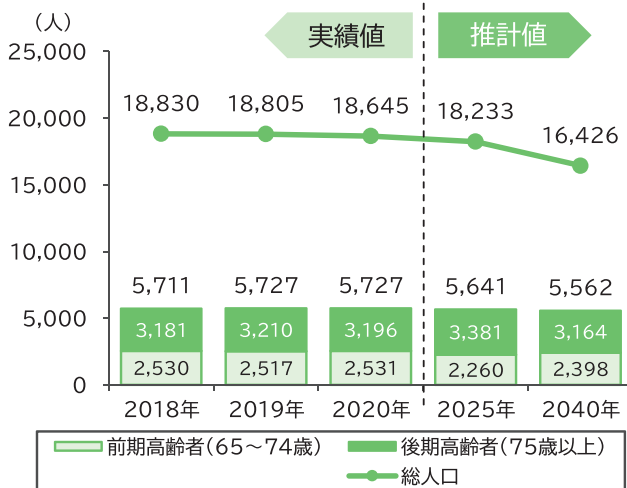
- 島田駅以西の中心市街地から大井川までの地域。平地が多い。
- 小学校区：第一小学校、第二小学校、第三小学校の一部
- 地区社協：第三小学校区地区社協
- 公共交通機関：JR 島田駅、バス路線
- 医療機関や商店が地域内に点在している。
- 歴史ある地域であるが、古くからの市街地では、新しい住民の転入が少なく、地域全体で高齢化していく傾向がある。

**高齢者の状況**

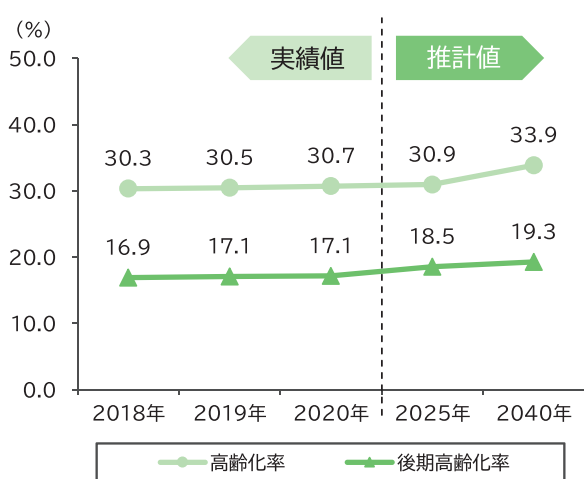
- 高齢化率は30.7%と市全体(31.1%)を0.4ポイント下回っている。
- 後期高齢化率は17.1%と市全体(16.3%)を0.8ポイント上回っている。
- 認定率は14.3%と市全体(13.8%)より0.5ポイント高い割合となっている。
- 認定者の要介護度別内訳では、要支援1・2、要介護1の軽度者が41.9%と市全体(40.8%)を1.1ポイント上回り、市内で2番目に高い。また、要介護4・5の重度者の割合が16.3%と市全体(21.9%)を5.6ポイント下回り、市内で最も低い。



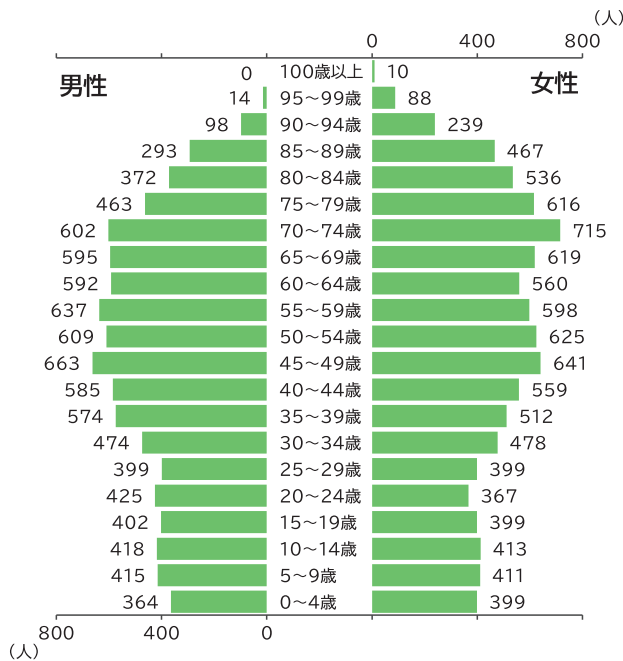
■人口の推移



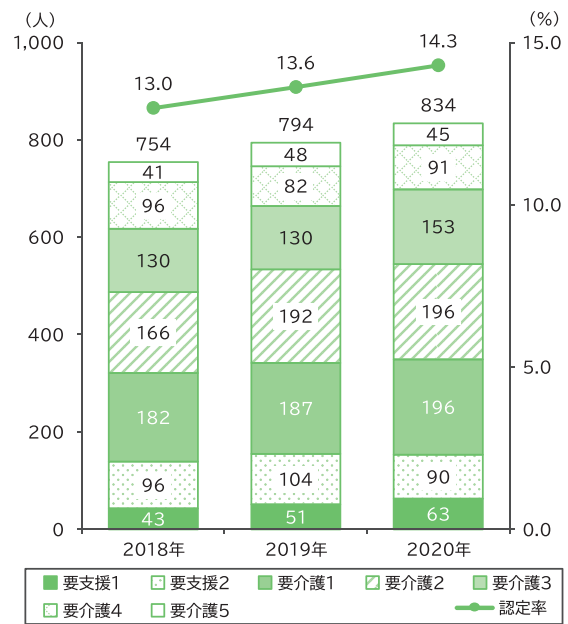
■高齢化率の推移



■人口ピラミッド



■要介護度別認定者数・認定率の推移



■介護（介護予防）サービス利用者数（2020(令和2)年10月審査分）

居宅サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
訪問介護	111	13.3%	
訪問入浴介護	9	1.1%	
訪問看護	57	6.8%	
訪問リハビリテーション	5	0.6%	
通所介護	145	17.4%	
通所リハビリテーション	50	6.0%	
短期入所生活介護	41	4.9%	
短期入所療養介護	6	0.7%	
居宅療養管理指導	117	14.0%	
特定施設入居者生活介護	42	5.0%	
福祉用具貸与	317	38.0%	

地域密着型サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
認知症対応型通所介護	5	0.6%	
小規模多機能型居宅介護	33	4.0%	
認知症対応型共同生活介護	57	6.8%	
地域密着型通所介護	98	11.8%	

施設サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
介護老人福祉施設	13	1.6%	
介護老人保健施設	91	10.9%	
介護療養型医療施設	0	0.0%	
介護医療院	1	0.1%	

※利用率＝月利用人数／認定者数（第2号被保険者を含む）

■地域の資源

単位：か所

医療	施設	数	介護	サービス	数
	医院・病院	14		訪問介護	6
	薬局	13		訪問入浴介護	0
	歯科医院	9		訪問看護	1
	居場所	8		訪問リハビリテーション	0
	しまトレ	11		通所介護(地域密着型を含む)	4
	地域ふれあい	9		通所リハビリテーション	1
	老人クラブ	7		短期入所生活介護	0
	生活支援	0		短期入所療養介護	1
	認知症カフェ	2		認知症対応型共同生活介護	4
	自治会	14		小規模多機能型居宅介護	1
	町内会	19		認知症対応型通所介護	0
	公民館・公会堂	18		おでかけデイサービス	1

2020(令和2)年12月末日現在

## ② 北中学校区

地域包括支援センター	高齢者あんしんセンター第一・北 (島田第一・北中学校区地域包括支援センター)
------------	---

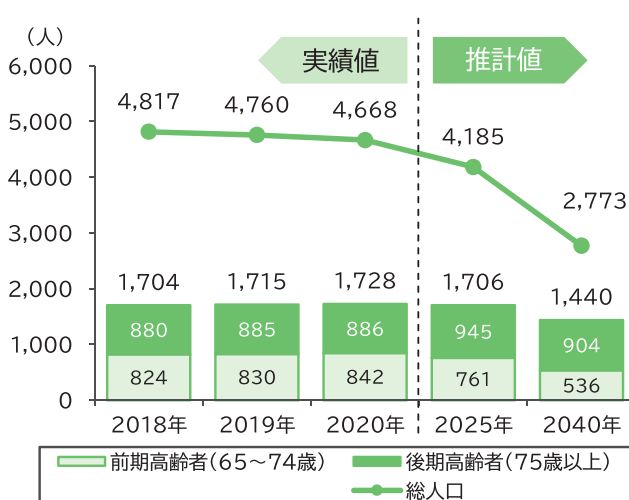
人口	4,668人	65歳以上人口 (高齢化率)	1,728人 (37.0%)	要支援認定者数	37人
		75歳以上人口 (後期高齢化率)	886人 (19.0%)	要介護認定者数	188人

2020(令和2)年9月30日現在

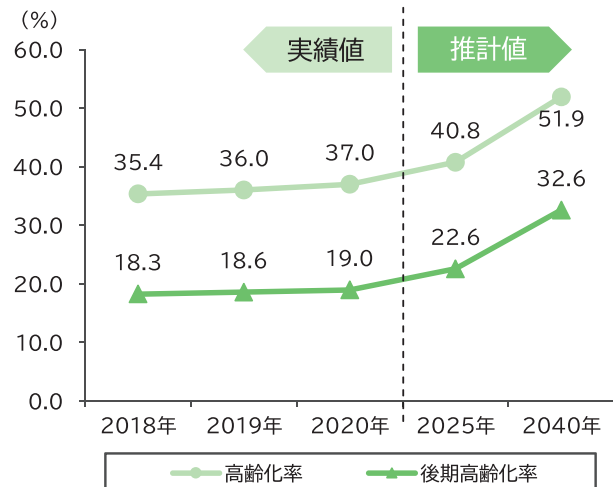
<b>地理的特徴</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●旧島田市の北部に位置し、山林が多く、広い面積に集落が点在している。</li> <li>●小学校区：伊太小学校、相賀小学校、神座小学校、伊久美小学校</li> <li>●公共交通機関：バス路線</li> <li>●医療機関はなく、商店もほとんどない。</li> <li>●高齢になっても農業に従事する人が多く、地域のつながりは強い。</li> </ul>
<b>高齢者の状況</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢化率は37.0%と市全体(31.1%)を5.9ポイント上回り、市内で2番目に高い。</li> <li>●後期高齢化率は19.0%と市全体(16.3%)を2.7ポイント上回り、市内で2番目に高い。</li> <li>●認定率は12.7%と市全体(13.8%)を1.1ポイント下回っている。</li> <li>●認定者の要介護度別内訳では、要支援1・2、要介護1の軽度者が39.1%と市全体(40.8%)を1.7ポイント下回り、市内で2番目に低い。また、要介護4・5の重度者は19.1%と市全体(21.9%)を2.8ポイント下回っている。</li> </ul>



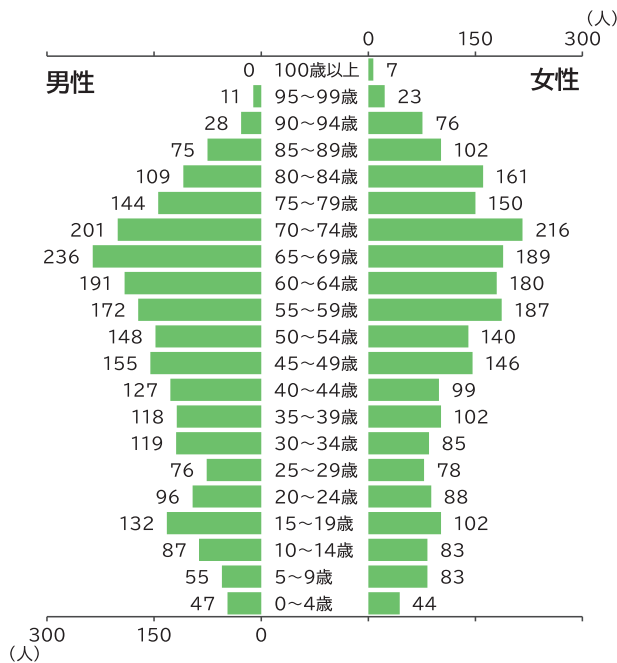
■ 人口の推移



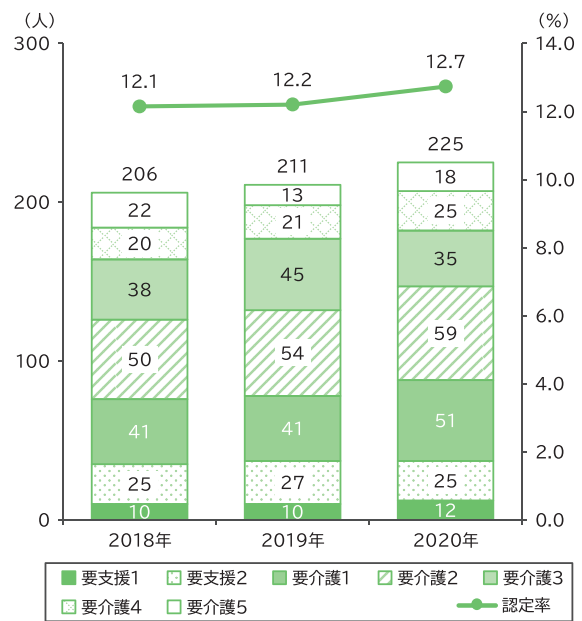
■ 高齢化率の推移



■人口ピラミッド



■要介護度別認定者数・認定率の推移



■介護（介護予防）サービス利用者数（2020(令和2)年10月審査分）

居宅サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
訪問介護	24	10.7%	
訪問入浴介護	12	5.3%	
訪問看護	14	6.2%	
訪問リハビリテーション	1	0.4%	
通所介護	33	14.7%	
通所リハビリテーション	10	4.4%	
短期入所生活介護	19	8.4%	
短期入所療養介護	1	0.4%	
居宅療養管理指導	19	8.4%	
特定施設入居者生活介護	8	3.6%	
福祉用具貸与	93	41.3%	

地域密着型サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
認知症対応型通所介護	1	0.4%	
小規模多機能型居宅介護	8	3.6%	
認知症対応型共同生活介護	6	2.7%	
地域密着型通所介護	37	16.4%	

施設サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
介護老人福祉施設	5	2.2%	
介護老人保健施設	36	16.0%	
介護療養型医療施設	0	0.0%	
介護医療院	0	0.0%	

※利用率＝月利用人数／認定者数（第2号被保険者を含む）

■地域の資源

単位：か所

医療	施設	数	介護	サービス	数
医院・病院		0	訪問介護		0
薬局		0	訪問入浴介護		0
歯科医院		0	訪問看護		1
居場所		4	訪問リハビリテーション		0
しまトレ		4	通所介護 (地域密着型を含む)		2
地域ふれあい		4	通所リハビリテーション		0
老人クラブ		5	短期入所生活介護		0
生活支援		0	短期入所療養介護		0
認知症カフェ		0	認知症対応型共同生活介護		1
自治会		4	小規模多機能型居宅介護		1
町内会		24	認知症対応型通所介護		1
公民館・公会堂		39	おでかけデイサービス		1

2020(令和2)年12月末日現在

### ③ 島田第二中学校区

地域包括支援センター	高齢者あんしんセンター第二 (島田第二中学校区地域包括支援センター)
------------	---------------------------------------

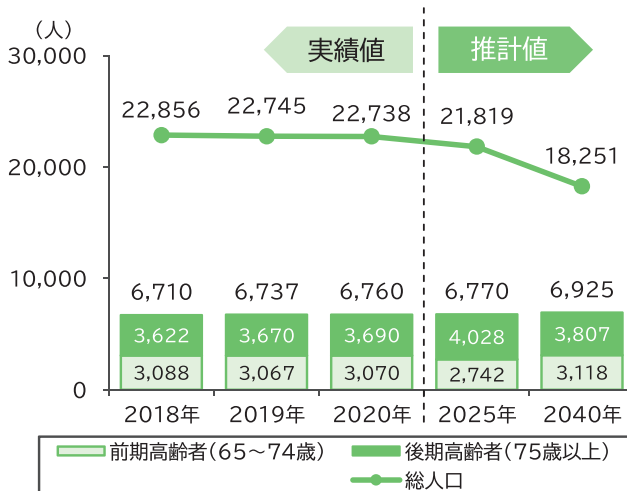
人口	22,738人	65歳以上人口 (高齢化率)	6,760人 (29.7%)	要支援認定者数	194人
		75歳以上人口 (後期高齢化率)	3,690人 (16.2%)	要介護認定者数	852人

2020(令和2)年9月30日現在

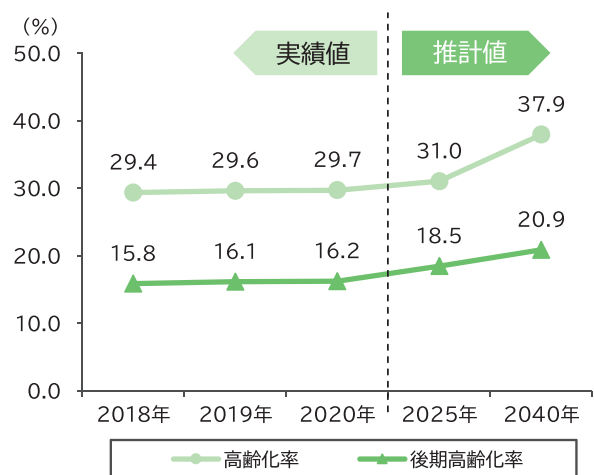
<b>地理的特徴</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●島田駅以東の中心市街地から北に広がり、山間部もある。</li> <li>●小学校区：第三小学校の一部、第四小学校、第五小学校、大津小学校</li> <li>●地区社協：御仮屋町地区社協、第三小学校区地区社協、第四小学校区地区社協、大津地区社協</li> <li>●公共交通機関：JR 島田駅、バス路線</li> <li>●医療機関や商店は中心市街地に集中し、中心部を離れた地域には少ない。</li> <li>●比較的集合住宅が多く、都市型の課題も出てきている。</li> </ul>
<b>高齢者の状況</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢化率は29.7%と市全体(31.1%)を1.4ポイント下回り、市内で2番目に低い。</li> <li>●後期高齢化率は16.2%と市全体(16.3%)を0.1ポイント下回っている。</li> <li>●認定率は15.1%と市全体(13.8%)を1.3ポイント上回り、市内で2番目に高い。</li> <li>●認定者の要介護度別内訳では、要支援1・2、要介護1の軽度者の割合は41.3%と市全体(40.8%)を0.5ポイント上回っている。また、要介護4・5の重度者は21.5%と市全体(21.9%)を0.4ポイント下回っている。</li> </ul>



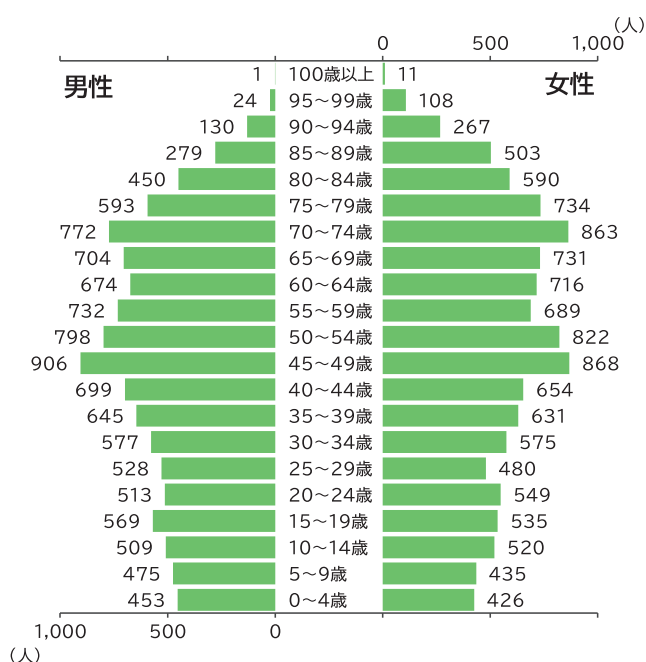
■人口の推移



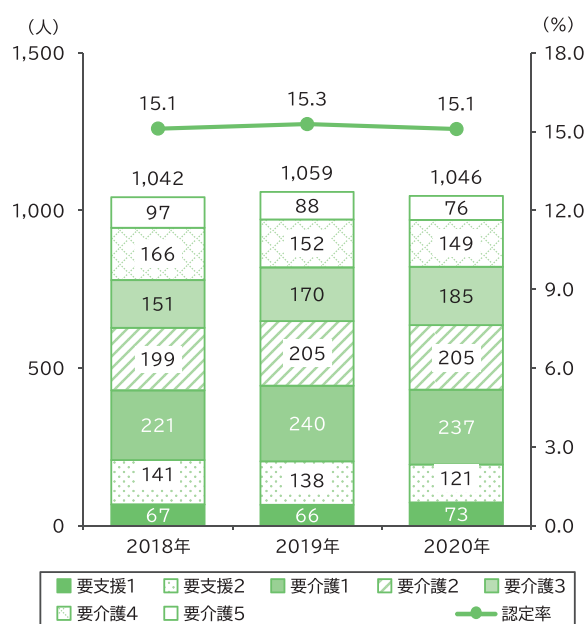
■高齢化率の推移



■人口ピラミッド



■要介護度別認定者数・認定率の推移



■介護（介護予防）サービス利用者数（2020(令和2)年10月審査分）

居宅サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
訪問介護	121	11.6%	
訪問入浴介護	25	2.4%	
訪問看護	56	5.4%	
訪問リハビリテーション	14	1.3%	
通所介護	194	18.5%	
通所リハビリテーション	67	6.4%	
短期入所生活介護	56	5.4%	
短期入所療養介護	5	0.5%	
居宅療養管理指導	109	10.4%	
特定施設入居者生活介護	45	4.3%	
福祉用具貸与	418	40.0%	

地域密着型サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
認知症対応型通所介護	5	0.5%	
小規模多機能型居宅介護	33	3.2%	
認知症対応型共同生活介護	48	4.6%	
地域密着型通所介護	80	7.6%	

施設サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
介護老人福祉施設	119	11.4%	
介護老人保健施設	93	8.9%	
介護療養型医療施設	1	0.1%	
介護医療院	3	0.3%	

※利用率＝月利用人数／認定者数（第2号被保険者を含む）

■地域の資源

単位：か所

医療	医院・病院	15	介護	訪問介護	4
	薬局	20		訪問入浴介護	2
	歯科医院	10		訪問看護	2
地域	居場所	17		訪問リハビリテーション	0
	しまトレ	16		通所介護（地域密着型を含む）	8
	地域ふれあい	22		通所リハビリテーション	0
	老人クラブ	12		短期入所生活介護	2
	生活支援	0		短期入所療養介護	0
	認知症カフェ	1		認知症対応型共同生活介護	2
	自治会	16		小規模多機能型居宅介護	1
町内会	35	認知症対応型通所介護	0		
公民館・公会堂	27	おでかけデイサービス	1		

2020（令和2）年12月末日現在



#### ④ 六合中学校区

地域包括支援センター	高齢者あんしんセンター六合 (六合中学校区地域包括支援センター)
------------	-------------------------------------

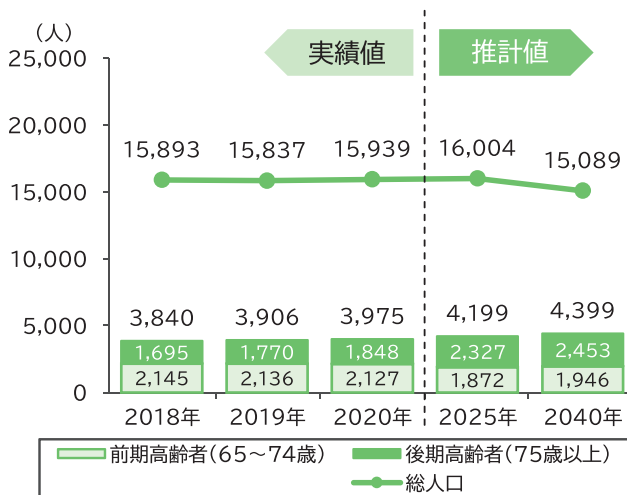
人口	15,939人	65歳以上人口 (高齢化率)	3,975人 (24.9%)	要支援認定者数	109人
		75歳以上人口 (後期高齢化率)	1,848人 (11.6%)	要介護認定者数	349人

2020(令和2)年9月30日現在

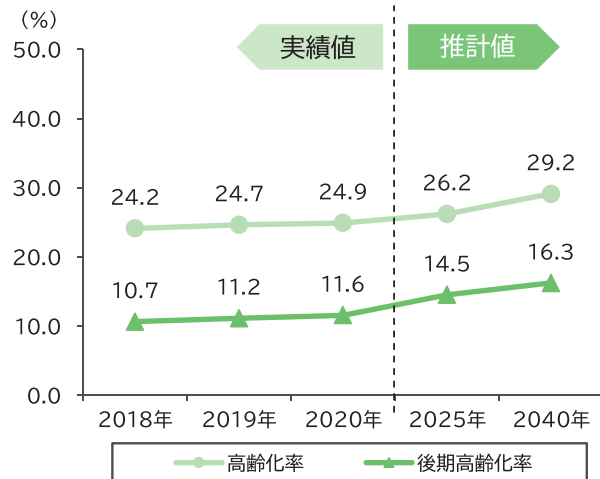
<b>地理的特徴</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の東端に位置し、藤枝市に隣接している。</li> <li>●小学校区：六合小学校、六合東小学校</li> <li>●地区社協：道悦島地区社協、岸町地区社協、阿知ヶ谷・東光寺地区社協、東町地区社協</li> <li>●公共交通機関：JR 六合駅、バス路線</li> <li>●若い世代が多く、比較的高齢化率が低い。</li> <li>●医療機関が点在し、山間部を除き買い物環境も比較的整っている。</li> </ul>
<b>高齢者の状況</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢化率は24.9%と市全体(31.1%)を6.2ポイント下回り、市内で最も低い。</li> <li>●後期高齢化率は11.6%と市全体(16.3%)を4.7ポイント下回り、市内で最も低い。</li> <li>●認定率は11.2%と市全体(13.8%)を2.6ポイント下回り、市内で最も低い。</li> <li>●認定者の要介護度別内訳では、要支援1・2、要介護1の軽度者の割合が47.2%と市全体(40.8%)を6.4ポイント上回り、市内で最も高い。また、要介護4・5の重度者の割合は18.6%と市全体(21.9%)を3.3ポイント下回り、市内で2番目に低い。</li> </ul>



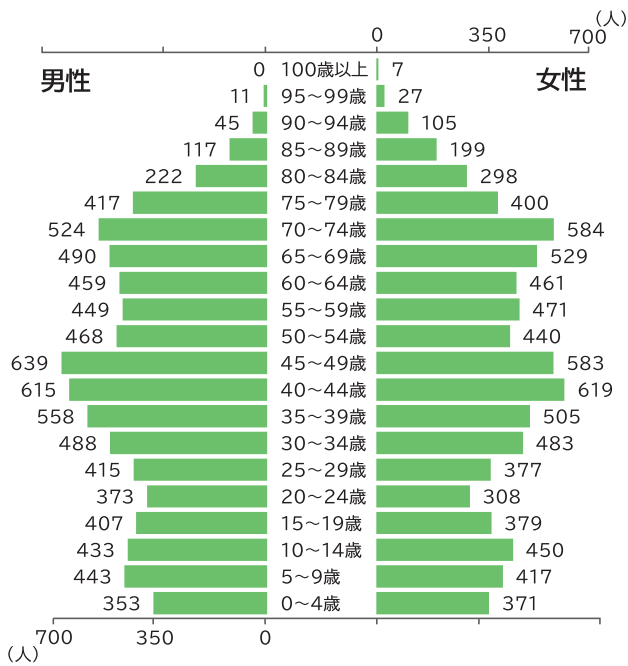
■ 人口の推移



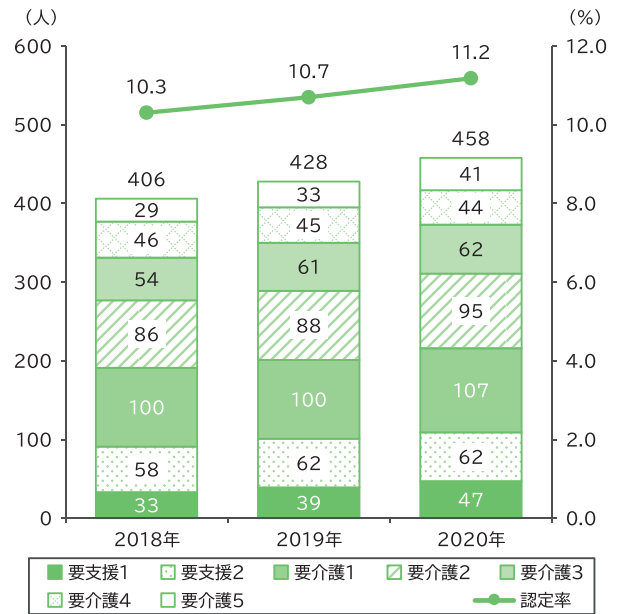
■ 高齢化率の推移



■人口ピラミッド



■要介護度別認定者数・認定率の推移



■介護（介護予防）サービス利用者数（2020(令和2)年10月審査分）

居宅サービス	人		利用率 対認定者数
	月利用人数	対認定者数	
訪問介護	35	35	7.6%
訪問入浴介護	8	8	1.7%
訪問看護	17	17	3.7%
訪問リハビリテーション	4	4	0.9%
通所介護	102	102	22.3%
通所リハビリテーション	44	44	9.6%
短期入所生活介護	28	28	6.1%
短期入所療養介護	2	2	0.4%
居宅療養管理指導	59	59	12.9%
特定施設入居者生活介護	34	34	7.4%
福祉用具貸与	198	198	43.2%

地域密着型サービス	人		利用率 対認定者数
	月利用人数	対認定者数	
認知症対応型通所介護	1	1	0.2%
小規模多機能型居宅介護	15	15	3.3%
認知症対応型共同生活介護	13	13	2.8%
地域密着型通所介護	25	25	5.5%

施設サービス	人		利用率 対認定者数
	月利用人数	対認定者数	
介護老人福祉施設	10	10	2.2%
介護老人保健施設	50	50	10.9%
介護療養型医療施設	0	0	0.0%
介護医療院	3	3	0.7%

※利用率＝月利用人数／認定者数（第2号被保険者を含む）

■地域の資源

単位：か所

医療	施設	数	介護	サービス	数
	医院・病院	8		訪問介護	1
	薬局	8		訪問入浴介護	0
	歯科医院	6		訪問看護	0
	居場所	8		訪問リハビリテーション	0
	しまトレ	13		通所介護(地域密着型を含む)	5
	地域ふれあい	3		通所リハビリテーション	1
	老人クラブ	4		短期入所生活介護	0
	生活支援	2		短期入所療養介護	1
	認知症カフェ	1		認知症対応型共同生活介護	2
	自治会	4		小規模多機能型居宅介護	1
	町内会	10		認知症対応型通所介護	0
	公民館・公会堂	34		おでかけデイサービス	0

2020(令和2)年12月末日現在

## ⑤ 初倉中学校区

地域包括支援センター	高齢者あんしんセンター初倉 (初倉中学校区地域包括支援センター)
------------	-------------------------------------

人口	12,991人	65歳以上人口 (高齢化率)	3,864人 (29.7%)	要支援認定者数	67人
		75歳以上人口 (後期高齢化率)	1,742人 (13.4%)	要介護認定者数	389人

2020(令和2)年9月30日現在

### 地理的特徴

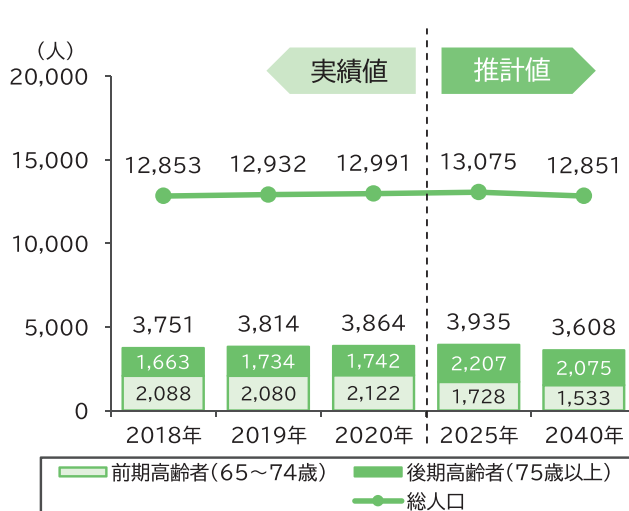
- 市の南端に位置し、吉田町に隣接している。
- 小学校区：初倉小学校、初倉南小学校
- 地区社協：初倉南小学校区地区社協
- 公共交通機関：バス路線
- 医療機関や商店は中心部に集中し、周辺部には少ない。

### 高齢者の状況

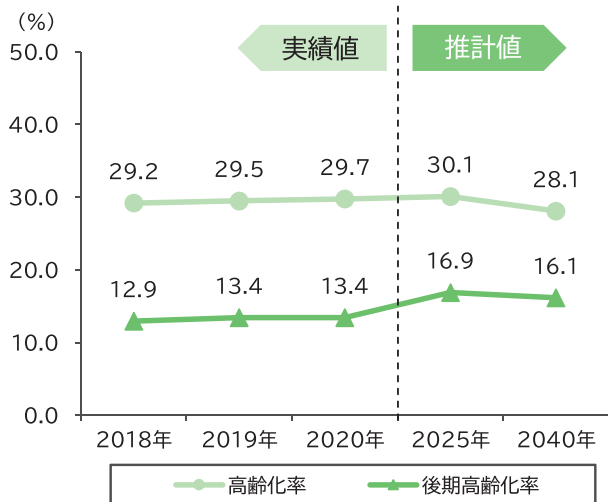
- 高齢化率は29.7%と市全体(31.1%)を1.4ポイント下回っている。
- 後期高齢化率は13.4%と市全体(16.3%)を2.9ポイント下回り、市内で2番目に低い。
- 認定率は11.7%と市全体(13.8%)を2.1ポイント下回り、市内で2番目に低い。
- 認定者の要介護度別内訳では、要支援1・2、要介護1の軽度者は35.5%と市全体(40.8%)を5.3ポイント下回り、市内で最も低い。また、要介護4・5の重度者は29.4%と市全体(21.9%)を7.5ポイント上回り、市内で最も高い。



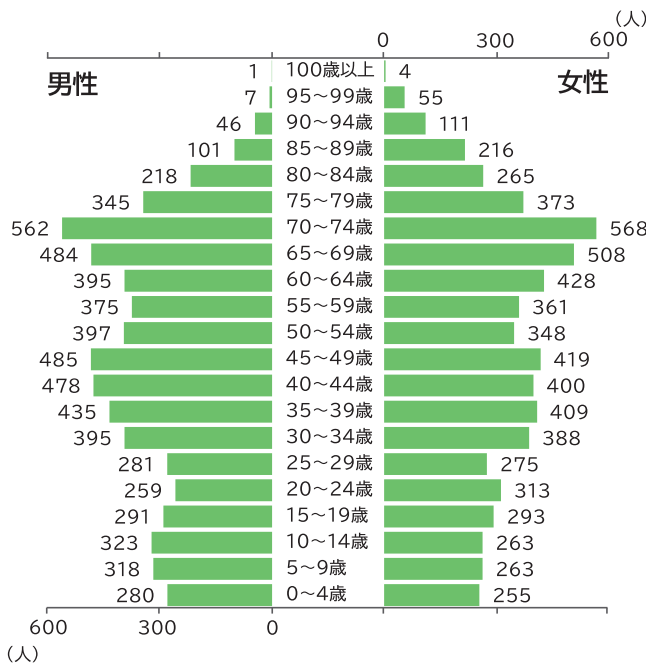
### ■人口の推移



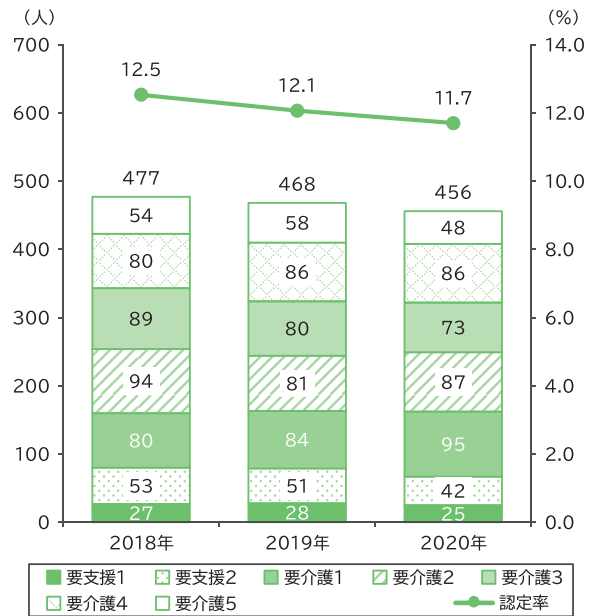
### ■高齢化率の推移



■人口ピラミッド



■要介護度別認定者数・認定率の推移



■介護（介護予防）サービス利用者数（2020(令和2)年10月審査分）

居宅サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
訪問介護	41	9.0%	
訪問入浴介護	10	2.2%	
訪問看護	22	4.8%	
訪問リハビリテーション	2	0.4%	
通所介護	121	26.5%	
通所リハビリテーション	41	9.0%	
短期入所生活介護	42	9.2%	
短期入所療養介護	5	1.1%	
居宅療養管理指導	26	5.7%	
特定施設入居者生活介護	10	2.2%	
福祉用具貸与	171	37.5%	

地域密着型サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
認知症対応型通所介護	0	0.0%	
小規模多機能型居宅介護	1	0.2%	
認知症対応型共同生活介護	9	2.0%	
地域密着型通所介護	16	3.5%	

施設サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
介護老人福祉施設	85	18.6%	
介護老人保健施設	46	10.1%	
介護療養型医療施設	1	0.2%	
介護医療院	1	0.2%	

※利用率＝月利用人数／認定者数（第2号被保険者を含む）

■地域の資源

単位：か所

医療	医院・病院	6	介護	訪問介護	2
	薬局	5		訪問入浴介護	0
	歯科医院	4		訪問看護	0
	居場所	6		訪問リハビリテーション	0
地域	しまトレ	10	通所介護（地域密着型を含む）	5	
	地域ふれあい	8	通所リハビリテーション	0	
	老人クラブ	11	短期入所生活介護	2	
	生活支援	0	短期入所療養介護	0	
	認知症カフェ	3	認知症対応型共同生活介護	1	
	自治会	10	小規模多機能型居宅介護	0	
	町内会	20	認知症対応型通所介護	0	
	公民館・公会堂	27	おでかけデイサービス	0	

2020(令和2)年12月末日現在

## ⑥ 金谷中学校区

地域包括支援センター	高齢者あんしんセンター金谷 (金谷中学校区地域包括支援センター)
------------	-------------------------------------

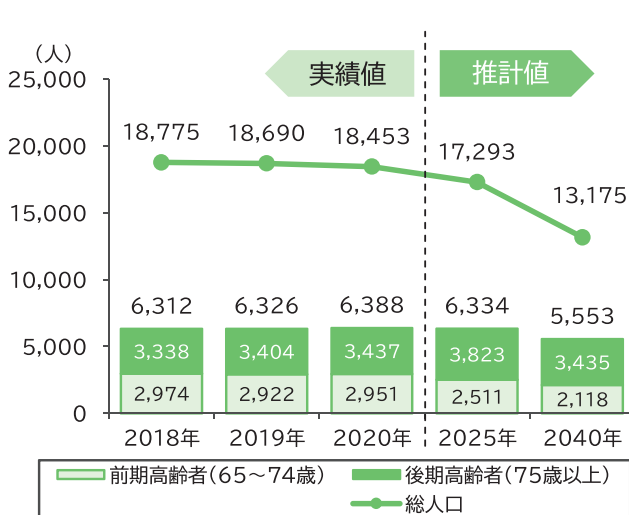
人口	18,453人	65歳以上人口 (高齢化率)	6,388人 (34.6%)	要支援認定者数	168人
		75歳以上人口 (後期高齢化率)	3,437人 (18.6%)	要介護認定者数	761人

2020(令和2)年9月30日現在

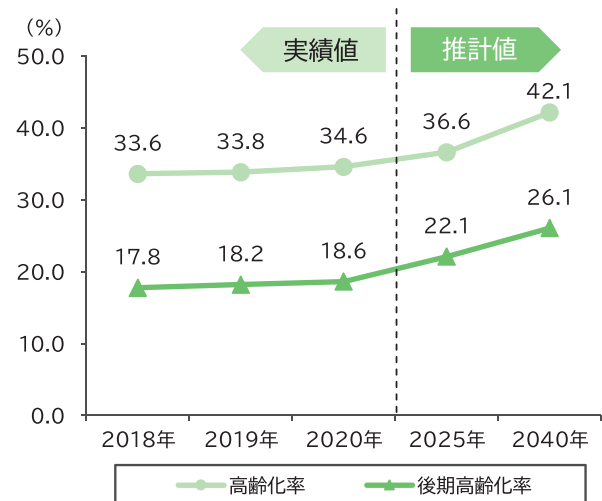
<b>地理的特徴</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●大井川右岸に位置し、平地、牧之原台地、山間地からなる。</li> <li>●小学校区：金谷小学校、五和小学校</li> <li>●地区社協：金谷地区社協</li> <li>●公共交通機関：JR 金谷駅、大井川鐵道、バス路線</li> <li>●一部の地域では、比較的医療機関の受診環境、買い物環境が整っている。</li> </ul>
<b>高齢者の状況</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢化率は34.6%と市全体(31.1%)を3.5ポイント上回っている。</li> <li>●後期高齢化率は18.6%と、市全体(16.3%)を2.3ポイント上回っている。</li> <li>●認定率は14.5%と市全体(13.8%)を0.7ポイント上回っている。</li> <li>●認定者の要介護度別内訳では、要支援1・2、要介護1の軽度者は39.8%と市全体(40.8%)を1.0ポイント下回っている。また、要介護4・5の重度者は24.6%と市全体(21.9%)を2.7ポイント上回っている。</li> </ul>



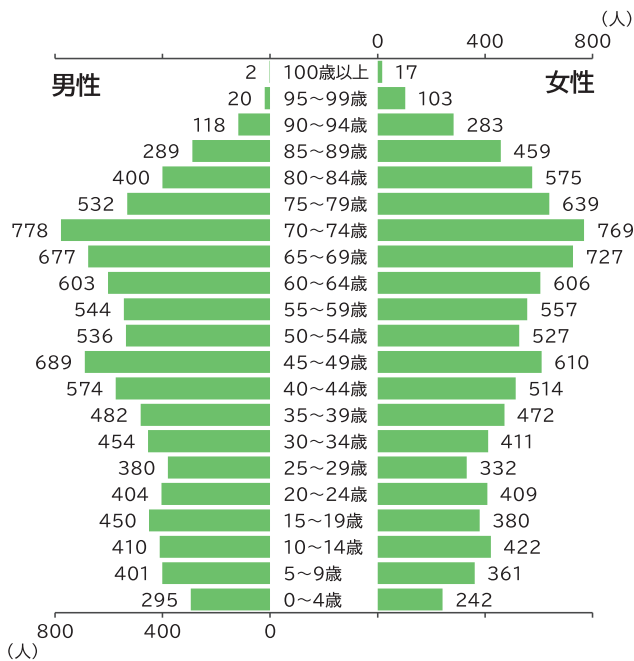
■人口の推移



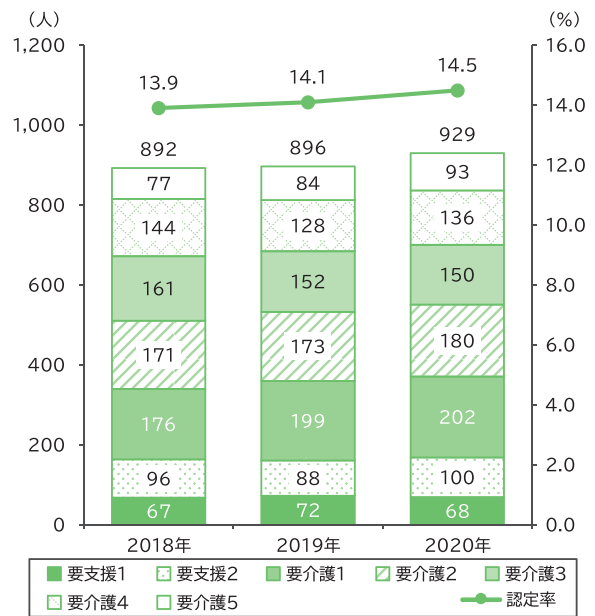
■高齢化率の推移



■人口ピラミッド



■要介護度別認定者数・認定率の推移



■介護（介護予防）サービス利用者数（2020(令和2)年10月審査分）

居宅サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
訪問介護	61	6.6%	
訪問入浴介護	25	2.7%	
訪問看護	34	3.7%	
訪問リハビリテーション	4	0.4%	
通所介護	105	11.3%	
通所リハビリテーション	81	8.7%	
短期入所生活介護	66	7.1%	
短期入所療養介護	6	0.6%	
居宅療養管理指導	117	12.6%	
特定施設入居者生活介護	73	7.9%	
福祉用具貸与	273	29.4%	

地域密着型サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
認知症対応型通所介護	2	0.2%	
小規模多機能型居宅介護	23	2.5%	
認知症対応型共同生活介護	29	3.1%	
地域密着型通所介護	94	10.1%	

施設サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
介護老人福祉施設	131	14.1%	
介護老人保健施設	114	12.3%	
介護療養型医療施設	0	0.0%	
介護医療院	2	0.2%	

※利用率＝月利用人数／認定者数（第2号被保険者を含む）

■地域の資源

単位：か所

医療	施設	数	介護	サービス	数
医療	医院・病院	8	介護	訪問介護	1
医療	薬局	6		訪問入浴介護	0
医療	歯科医院	5		訪問看護	0
地域	居場所	17		訪問リハビリテーション	1
	しまトレ	25		通所介護（地域密着型を含む）	10
	地域ふれあい	9		通所リハビリテーション	1
	老人クラブ	10		短期入所生活介護	3
	生活支援	1		短期入所療養介護	1
	認知症カフェ	0		認知症対応型共同生活介護	1
	自治会	17		小規模多機能型居宅介護	1
	町内会	38		認知症対応型通所介護	0
	公民館・公会堂	65		おでかけデイサービス	1

2020(令和2)年12月末日現在

## ⑦ 川根中学校区

地域包括支援センター	高齢者あんしんセンター川根 (川根中学校区地域包括支援センター)
------------	-------------------------------------

人口	4,474人	65歳以上人口 (高齢化率)	2,051人 (45.8%)	要支援認定者数	57人
		75歳以上人口 (後期高齢化率)	1,202人 (26.9%)	要介護認定者数	261人

2020(令和2)年9月30日現在

### 地理的特徴

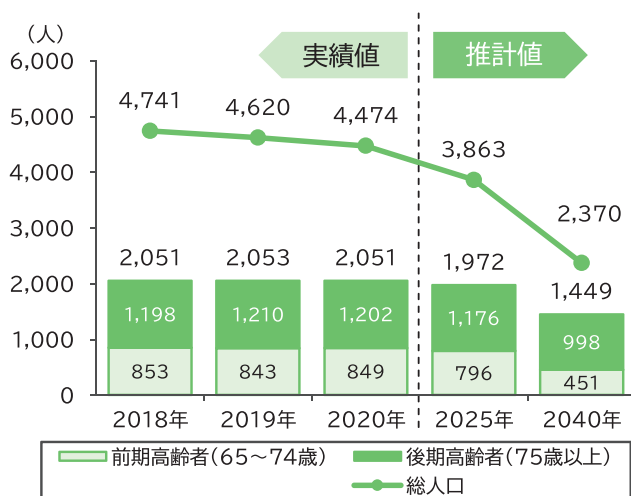
- 島田市の北部に位置し、面積の多くを森林と茶畑が占める。
- 小学校区：川根小学校
- 地区社協：川根身成地区社協
- 公共交通機関：大井川鐵道、バス路線。地区内にタクシー事業所がないため、地区内の移動にタクシーを利用できない。
- 医療機関、商店は人口の集まる中心部に集中し、周辺に点在する小集落から中心部までは距離がある。
- 高齢になっても農業に従事する人が多く、地域のつながりが強い。

### 高齢者の状況

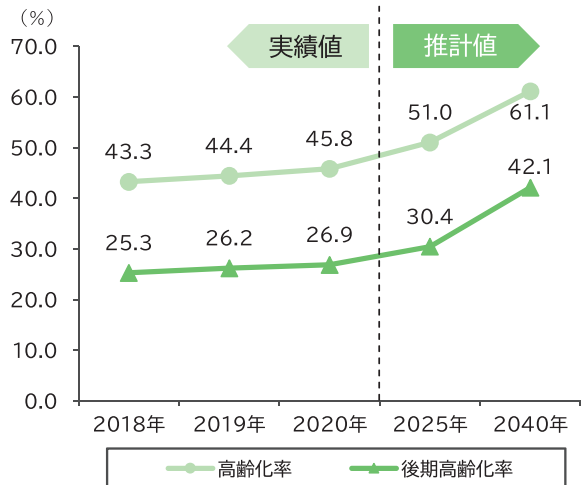
- 高齢化率は45.8%と市全体(31.1%)を14.7ポイント上回り、市内で最も高い。
- 後期高齢化率は26.9%と、市全体(16.3%)を10.6ポイント上回り、市内で最も高い。
- 認定率は15.5%と市全体(13.8%)を1.7ポイント上回り、市内で最も高い。
- 認定者の要介護度別内訳では、要支援1・2、要介護1の軽度者は39.7%と市全体(40.8%)を1.1ポイント下回っている。また、要介護4・5の重度者は25.1%と市全体(21.9%)を3.2ポイント上回り、市内で2番目に高い。



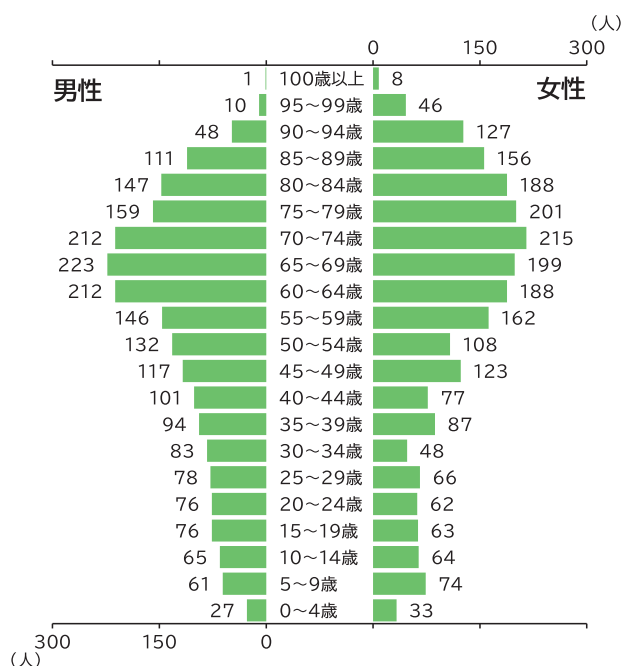
### ■人口の推移



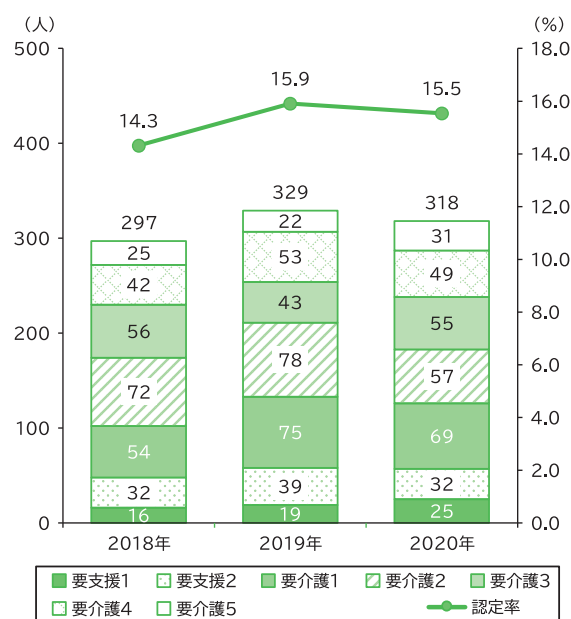
### ■高齢化率の推移



■人口ピラミッド



■要介護度別認定者数・認定率の推移



■介護（介護予防）サービス利用者数（2020(令和2)年10月審査分）

居宅サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
訪問介護	10	3.1%	
訪問入浴介護	11	3.5%	
訪問看護	14	4.4%	
訪問リハビリテーション	1	0.3%	
通所介護	90	28.3%	
通所リハビリテーション	2	0.6%	
短期入所生活介護	33	10.4%	
短期入所療養介護	1	0.3%	
居宅療養管理指導	24	7.5%	
特定施設入居者生活介護	10	3.1%	
福祉用具貸与	120	37.7%	

地域密着型サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
認知症対応型通所介護	0	0.0%	
小規模多機能型居宅介護	25	7.9%	
認知症対応型共同生活介護	13	4.1%	
地域密着型通所介護	1	0.3%	

施設サービス	人		利用率
	月利用人数	対認定者数	
介護老人福祉施設	42	13.2%	
介護老人保健施設	34	10.7%	
介護療養型医療施設	0	0.0%	
介護医療院	1	0.3%	

※利用率＝月利用人数／認定者数（第2号被保険者を含む）

■地域の資源

単位：か所

医療	施設	数	介護	数
医療	医院・病院	2	訪問介護	2
医療	薬局	2	訪問入浴介護	1
医療	歯科医院	2	訪問看護	1
地域	居場所	7	訪問リハビリテーション	0
	しまトレ	7	通所介護(地域密着型を含む)	3
	地域ふれあい	1	通所リハビリテーション	0
	老人クラブ	0	短期入所生活介護	1
	生活支援	0	短期入所療養介護	0
	認知症カフェ	1	認知症対応型共同生活介護	1
	自治会	4	小規模多機能型居宅介護	1
	町内会	28	認知症対応型通所介護	0
	公民館・公会堂	28	おでかけデイサービス	2

2020(令和2)年12月末日現在



# 4

## アンケート調査結果からみた高齢者の状況

### (1) 調査概要

#### ○調査方法

	介護予防・日常生活圏域二一ズ調査		在宅介護実態調査
	①一般高齢者調査	②要支援認定者調査	③要介護認定者調査
調査対象	市内在住で、要介護認定・要支援認定を受けていない65歳以上の高齢者	市内在住で在宅の、要支援認定を受けている方及び事業対象者 <sup>※1</sup>	市内在住で在宅の、要介護認定を受けている方
調査期間	2020（令和2）年1月24日～2月14日		
発送数	1,800票	1,000票	1,200票
有効回収数 <sup>※2</sup>	1,191票	596票	609票
有効回収率	66.2%	59.6%	50.8%

※1：事業対象者とは、「介護予防・日常生活支援サービス事業対象者」をいいます。

※2：有効回収数とは、調査票に全く記入の無い白票や回答が著しく少ないものを除いた数です。

#### ○調査結果の見方

- ・比率はすべて百分比であらわし、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、百分比の合計が100%にならないことがあります。
- ・基数となるべき調査数は、Nと表示しており、回答比率はこれを100%として算出しています。
- ・複数の回答が許されている設問においては、回答比率の合計が100%を超えることがあります。

### (2) 属性別回答状況

#### 性別

種別	男性	女性	不明
①一般高齢者調査	46.5%	53.3%	0.2%
②要支援認定者調査	27.5%	72.3%	0.2%
③要介護認定者調査	34.0%	56.2%	9.9%

#### 年齢

種別	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	不明	
①一般高齢者調査	24.9%	26.6%	26.4%	11.3%	10.6%	0.2%	
②要支援認定者調査	2.5%	7.9%	15.1%	26.7%	47.7%	0.2%	
③要介護認定者調査	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	不明
	1.8%	3.8%	10.3%	14.6%	25.5%	34.2%	9.9%

#### 日常生活圏域

種別	島田第一	北	島田第二	六合	初倉	金谷	川根	不明
①一般高齢者調査	18.1%	5.8%	21.5%	12.8%	12.3%	22.5%	6.9%	0.2%
②要支援認定者調査	22.8%	4.7%	22.1%	13.3%	6.7%	20.5%	9.7%	0.2%
③要介護認定者調査	18.2%	6.6%	23.0%	8.0%	8.5%	17.9%	7.9%	9.9%

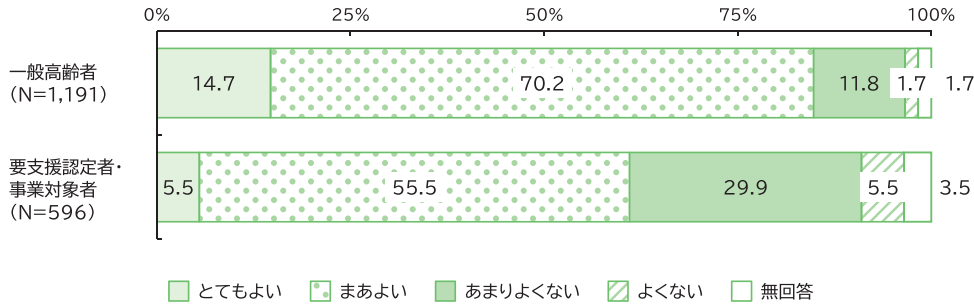
### (3) 調査結果

#### 健康について

##### ①現在の健康状態

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

「とてもよい」と「まあよい」を合わせた“健康状態はよい”と感じている人は一般高齢者で84.9%、要支援認定者・事業対象者で61.0%となっています。

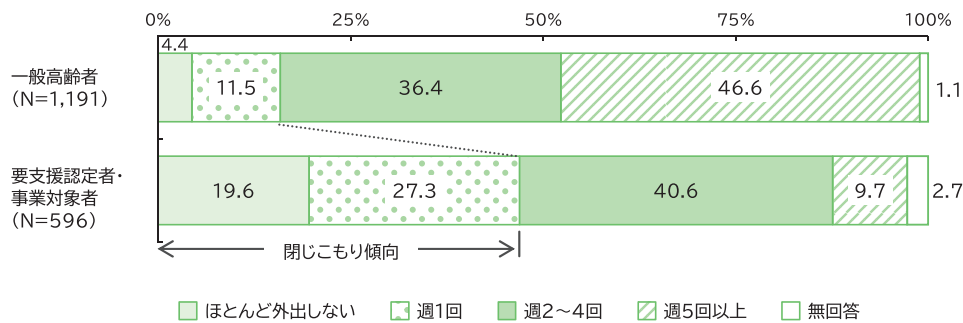


#### 移動について

##### ①外出の頻度

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

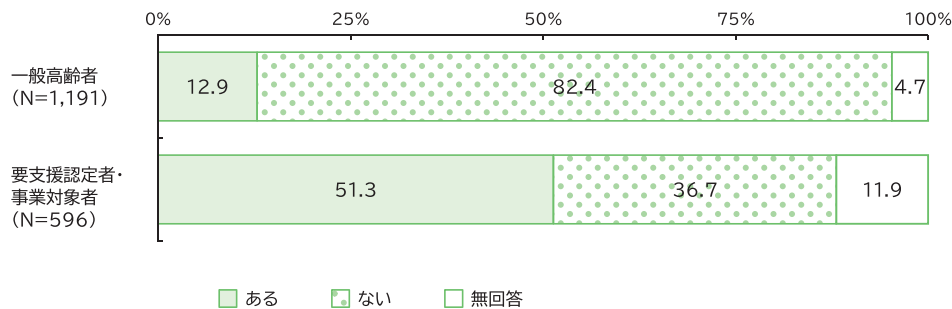
「ほとんど外出しない」または「週1回」に回答した、閉じこもり傾向のある人は、一般高齢者では15.9%、要支援認定者・事業対象者では46.9%となっています。



##### ②移動で困ること

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

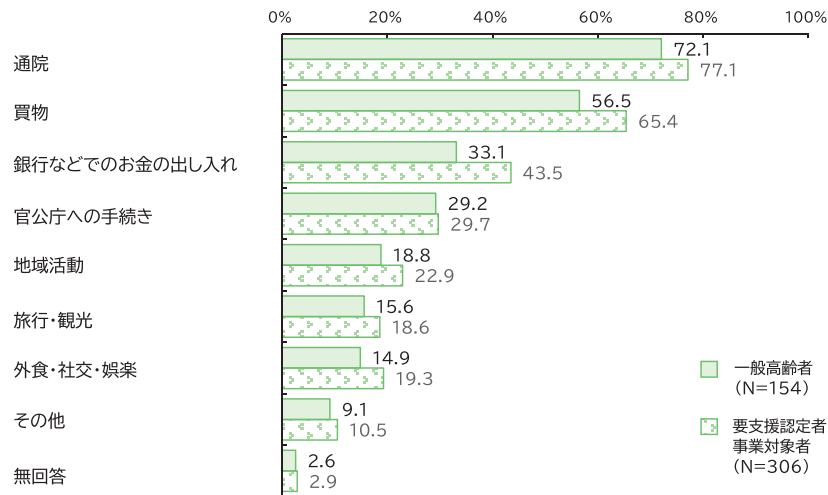
「ある」は、一般高齢者では12.9%であるのに対し、要支援認定者・事業対象者では51.3%と半数を超えています。



### ③移動に困る場面

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者で「移動で困ることがある」と回答した方のみ

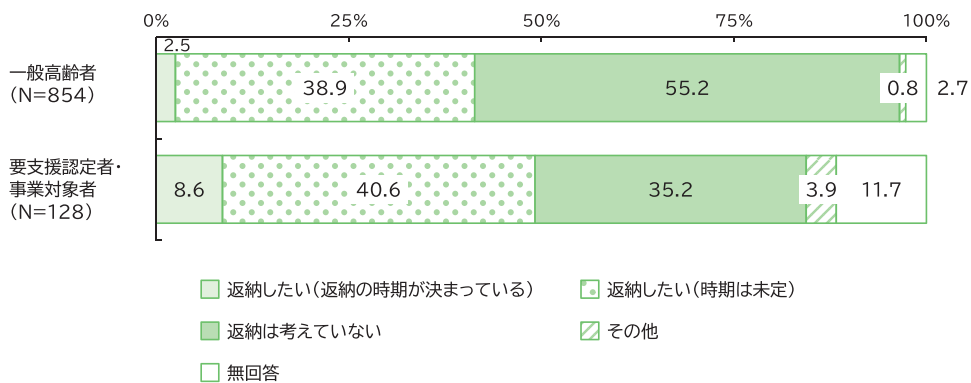
一般高齢者、要支援認定者・事業対象者ともに「通院」が7割を超えて最も多く、次いで「買物」が一般高齢者で56.5%、要支援認定者・事業対象者で65.4%となっています。



### ④運転免許証の返納について

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

「返納したい（返納の時期が決まっている）」と「返納したい（時期は未定）」を合わせた“返納したい”は、一般高齢者で41.4%、要支援認定者・事業対象者で49.2%となっています。

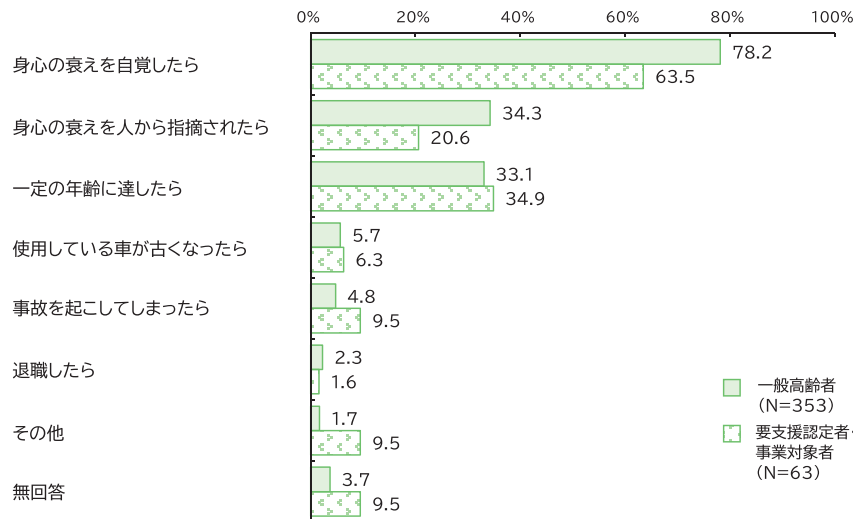


⑤返納しても良いと思う状態

※「返納したい(返納の時期が決まっている)」または「返納したい(時期は未定)」と回答した方のみ

一般高齢者では「身心の衰えを自覚したら」が78.2%と最も多く、次いで「身心の衰えを人から指摘されたら」が34.3%、「一定の年齢に達したら」が33.1%となっています。

要支援認定者・事業対象者では「身心の衰えを自覚したら」が63.5%と最も多く、次いで「一定の年齢に達したら」が34.9%、「身心の衰えを人から指摘されたら」が20.6%となっています。

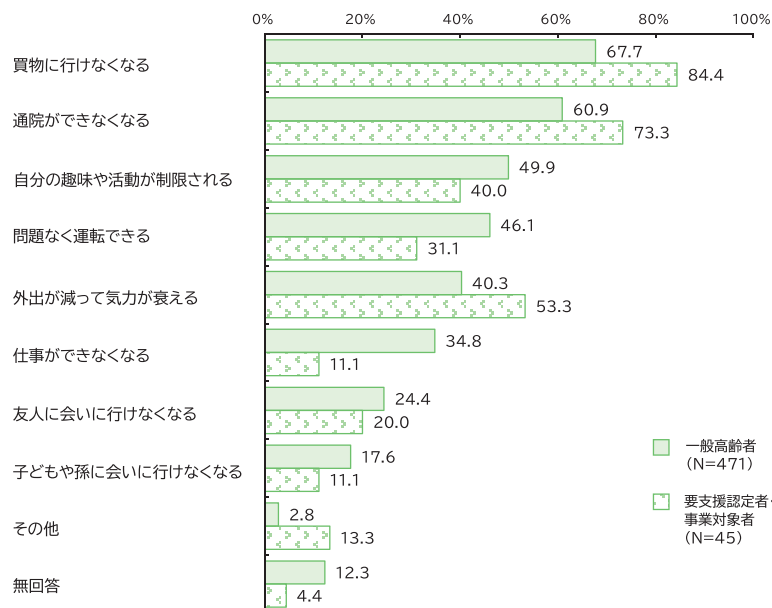


⑥返納しない理由

※「返納は考えていない」と回答した方のみ

一般高齢者では「買物に行けなくなる」が67.7%と最も多く、次いで「通院ができなくなる」が60.9%、「自分の趣味や活動が制限される」が49.9%となっています。

要支援認定者・事業対象者では「買物に行けなくなる」が84.4%と最も多く、次いで「通院ができなくなる」が73.3%、「外出が減って気力が衰える」が53.3%となっています。



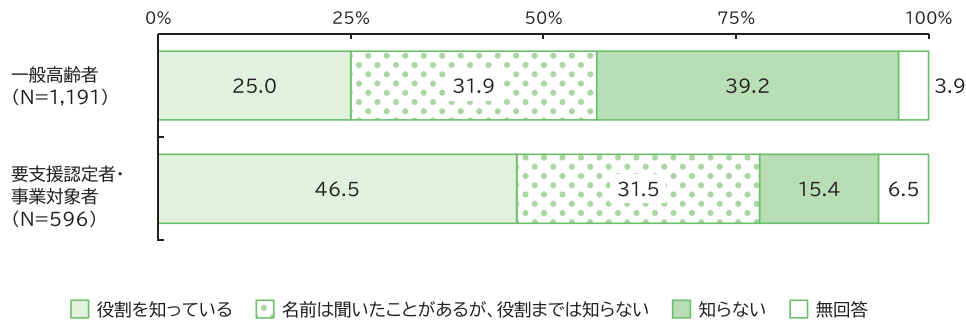
## 地域について

### ①地域包括支援センターの認知度

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

一般高齢者では「役割を知っている」と「名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない」を合わせた“知っている”が56.9%となっています。

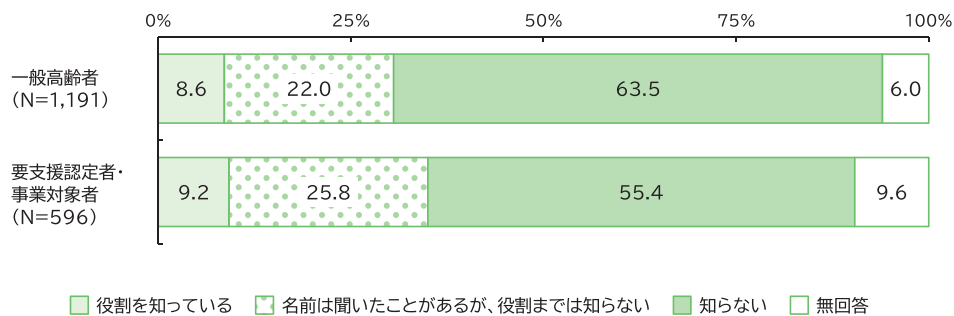
要支援認定者・事業対象者では“知っている”が78.0%と多く、「役割を知っている」も46.5%で、高い認知度となっています。



### ②成年後見支援センターの認知度

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

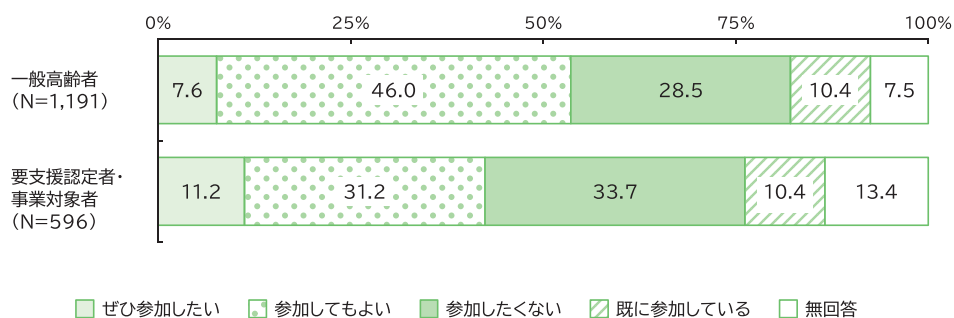
「役割を知っている」と「名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない」を合わせた“知っている”は、一般高齢者では30.6%、要支援認定者・事業対象者では35.0%となっています。



### ③地域づくりへの“参加者として”の参加意向

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

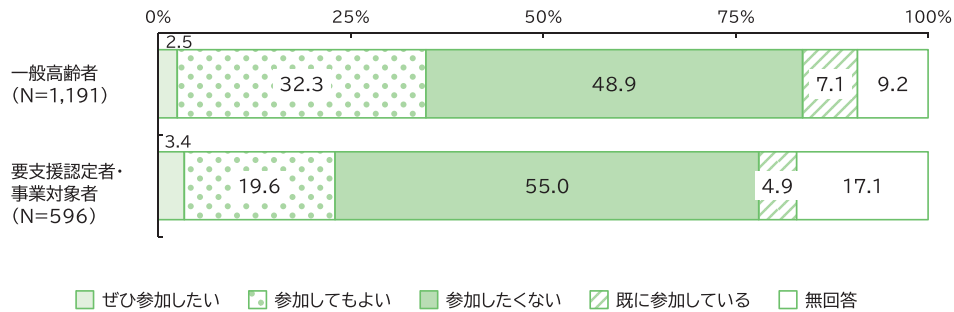
「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」を合わせた“参加してみたい”は、一般高齢者では53.6%、要支援認定者・事業対象者では42.4%となっています。



④地域づくりへの“企画・運営側として”の参加意向

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」を合わせた“参加してみたい”は、一般高齢者では34.8%、要支援認定者・事業対象者では23.0%となっています。

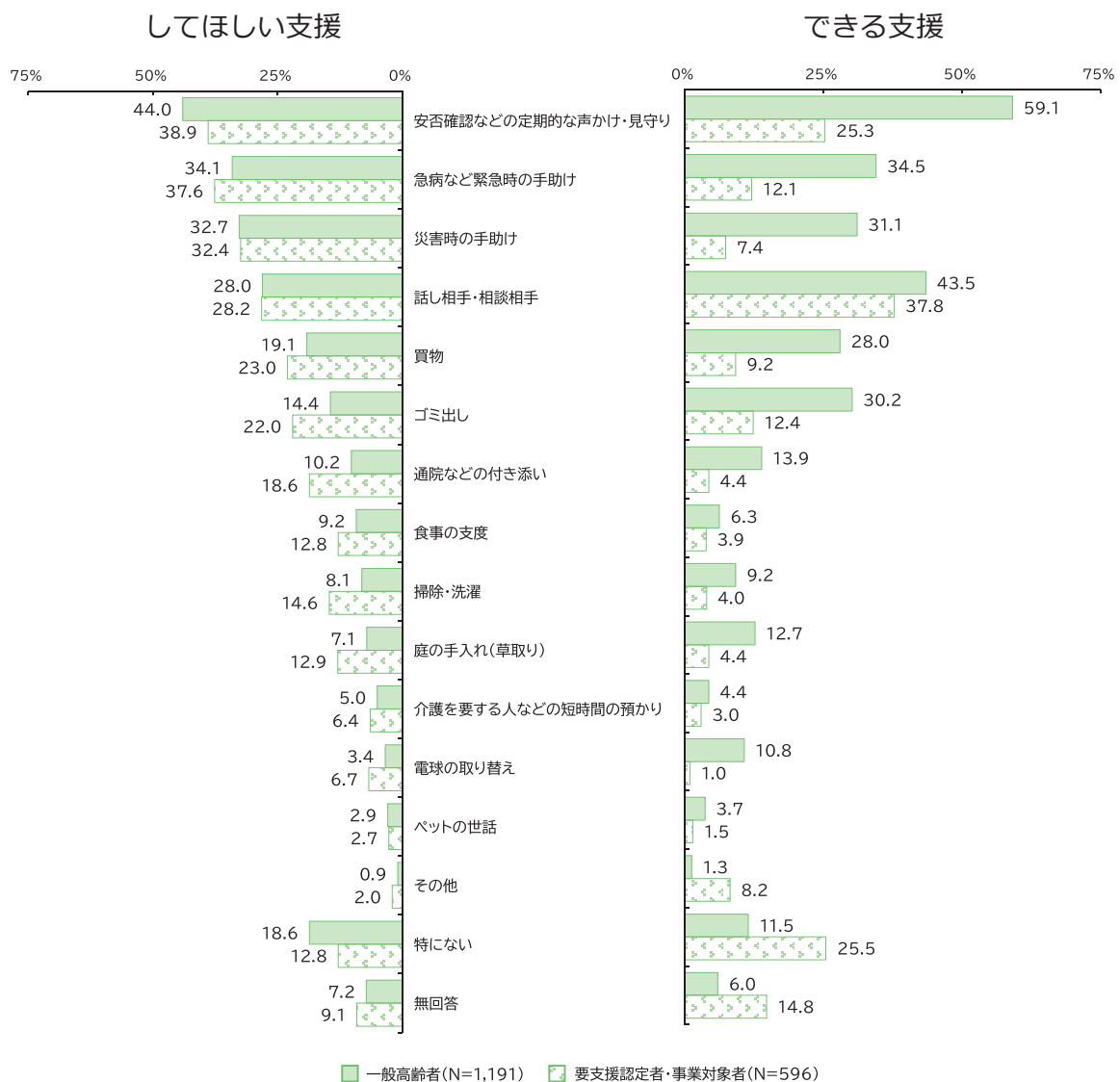


### ⑤地域の人にしてほしい支援・できる支援

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

地域の人にしてほしい支援については、一般高齢者では「安否確認などの定期的な声かけ・見守り」が44.0%と最も多く、次いで「急病など緊急時の手助け」が34.1%、「災害時の手助け」が32.7%となっています。要支援認定者・事業対象者では「安否確認などの定期的な声かけ・見守り」が38.9%と最も多く、次いで「急病など緊急時の手助け」が37.6%、「災害時の手助け」が32.4%となっています。

地域の人にできる支援については、一般高齢者では「話し相手・相談相手」が59.1%と最も多く、次いで「話し相手・相談相手」が43.5%、「急病など緊急時の手助け」が34.5%となっています。要支援認定者・事業対象者では「話し相手・相談相手」が37.8%と最も多く、次いで「安否確認などの定期的な声かけ・見守り」が25.3%となっています。

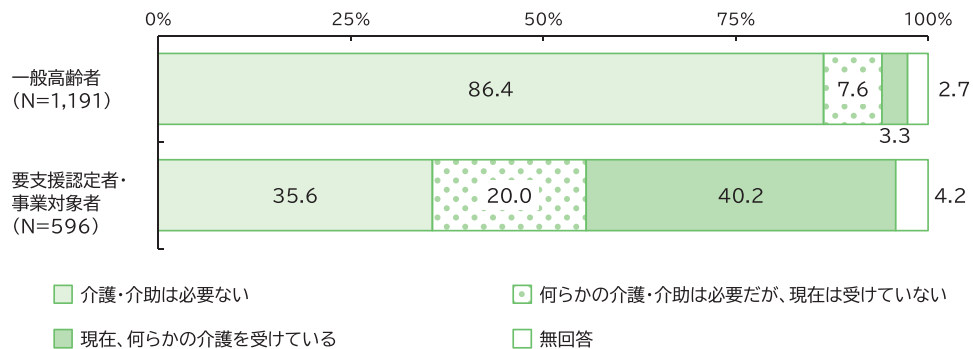


## 介護について

### ① 普段の生活での介護・介助の必要性

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

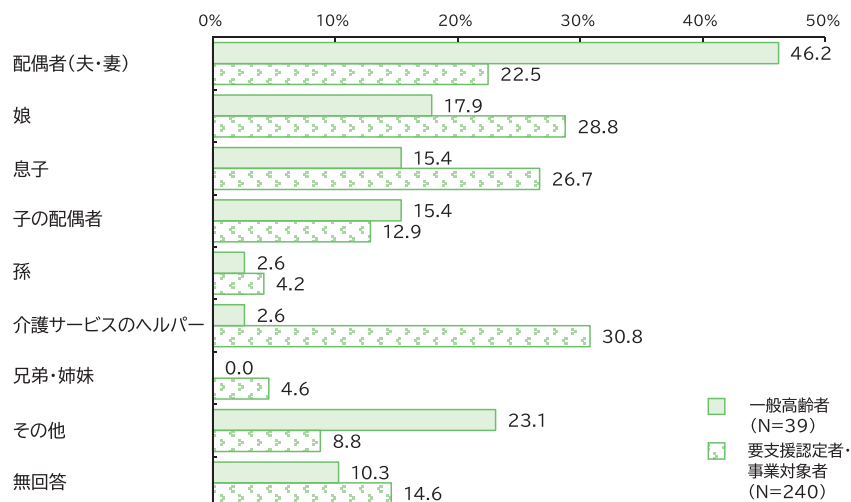
「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」を合わせた、“何らかの介護・介助が必要”な人は、一般高齢者では10.9%、要支援認定者・事業対象者では60.2%となっています。



### ② 介護を受けている人の主な介護者

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

一般高齢者では「配偶者(夫・妻)」46.2%が最も多く、要支援認定者・事業対象者では「介護サービスのヘルパー」30.8%が最も多くなっています。

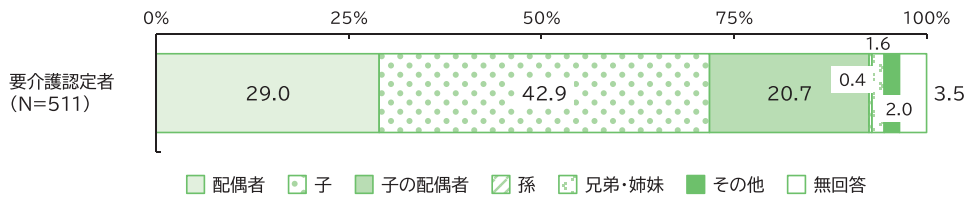




### ③ご家族やご親族からの介護を受けている人の主な介護者

※要介護認定者のみ

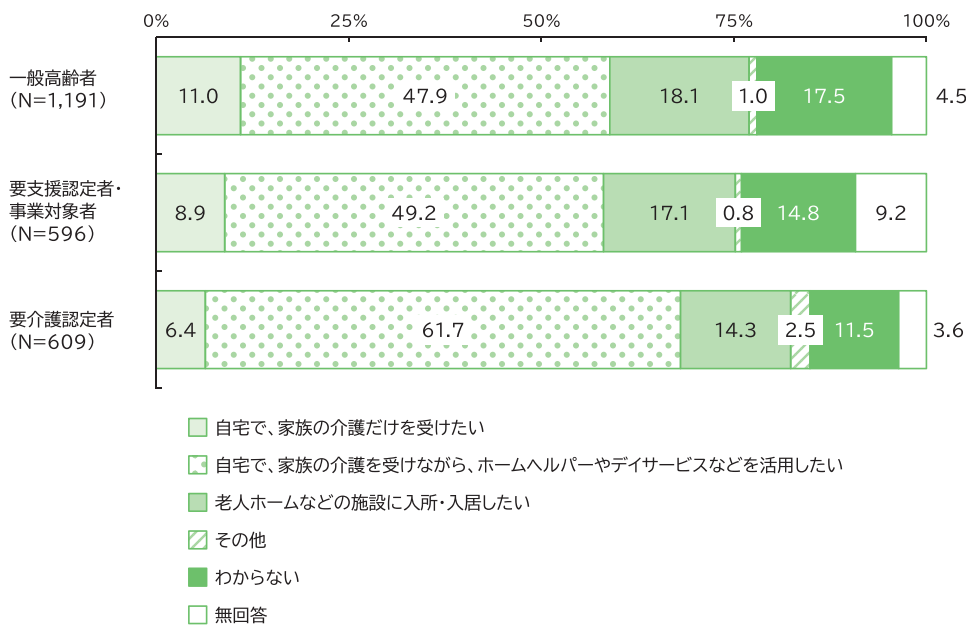
「子」が42.9%と最も多く、次いで「配偶者」が29.0%、「子の配偶者」が20.7%となっており、この3項目で92.6%となっています。



### ④今後、どのような介護を受けたいかの意向

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者

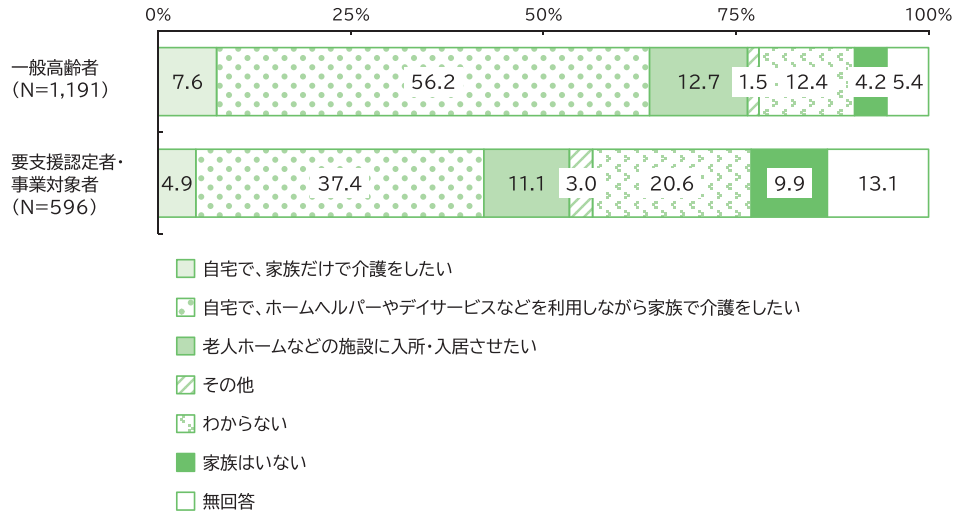
「自宅で、家族の介護だけを受けたい」と「自宅で、家族の介護を受けながら、ホームヘルパーやデイサービスなどを利用したい」を合わせた“自宅で介護を受けたい”は、一般高齢者で58.9%、要支援認定者・事業対象者で58.1%、要介護認定者で68.1%となっています。



⑤どのように介護をしたいかの意向

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

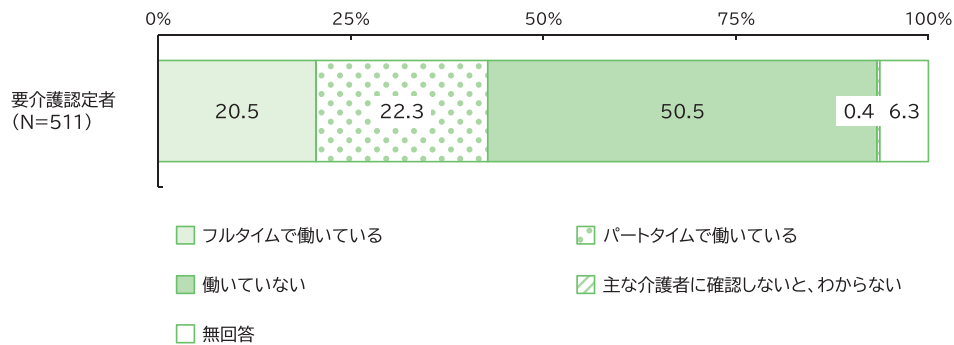
「自宅で、家族だけで介護をしたい」と「自宅で、ホームヘルパーやデイサービスなどを利用しながら家族で介護をしたい」を合わせた“自宅で介護をしたい”は、一般高齢者で63.8%、要支援認定者・事業対象者で42.3%となっています。



⑥主な介護者の勤務形態

※要介護認定者のみ

「働いていない」が50.5%と半数を占めています。一方、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた“働いている”は42.8%となっています。

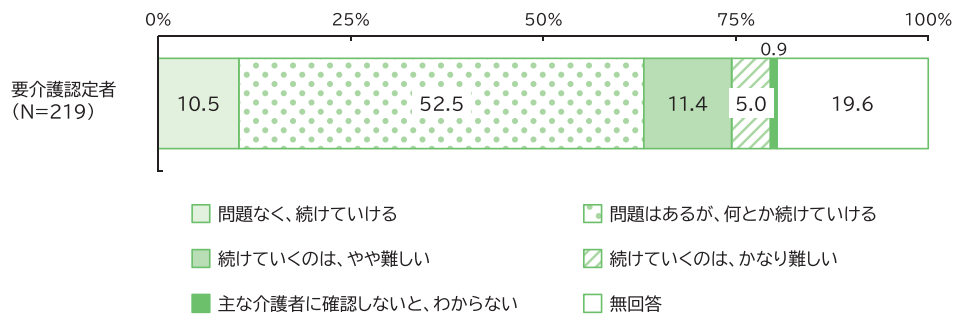


### ⑦今後も働きながら介護を続けていけるか

※要介護認定者の主な介護者の方が「フルタイムで働いている」または「パートタイムで働いている」と答えた方のみ

「問題はあるが、何とか続けていける」が52.5%と最も多く、「問題なく、続けていける」は10.5%で、この2項目を合わせた“続けていける”は63.0%となっています。

一方、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“続けていくのは難しい”は16.4%となっています。

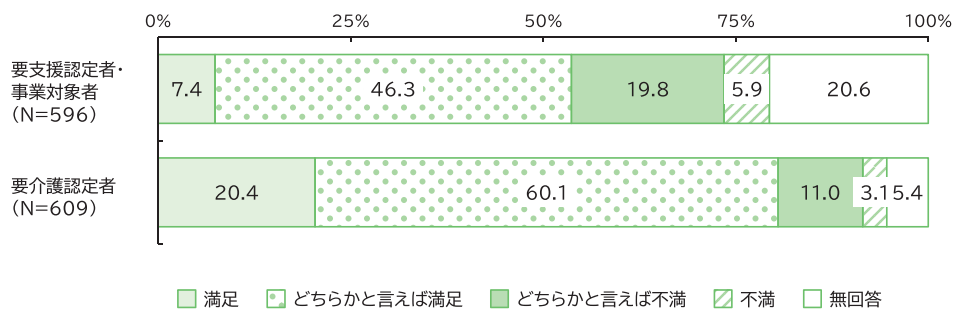


### ⑧介護保険全般の満足度

※要支援認定者・事業対象者、要介護認定者のみ

要支援認定者・事業対象者では、「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせた“満足”と答えた人は、53.7%となっています。一方、「どちらかと言えば不満」と「不満」を合わせた“不満”と答えた人は、25.7%となっています。

要介護認定者では、「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせた“満足”と答えた人は、80.5%となっています。一方、「どちらかと言えば不満」と「不満」を合わせた“不満”と答えた人は、14.1%となっています。

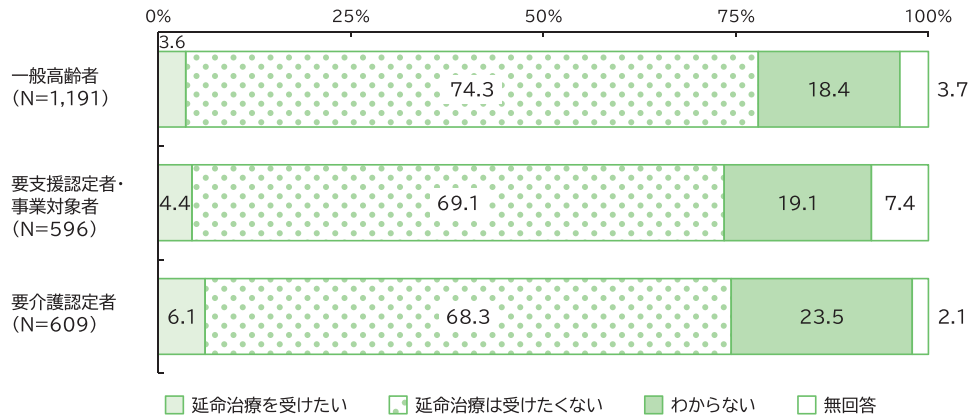


## 終末期について

### ①延命治療の意向

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者

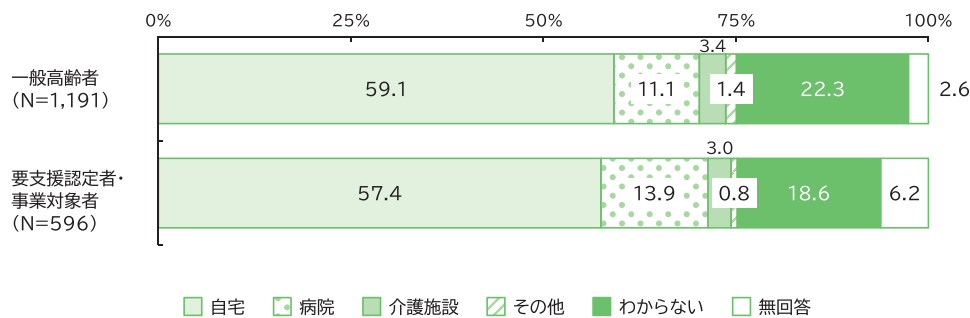
「延命治療は受けたくない」は、一般高齢者では74.3%、要支援認定者・事業対象者では69.1%、要介護認定者では68.3%となっています。



### ②最期を迎えたい場所

※一般高齢者、要支援認定者・事業対象者のみ

「自宅」は、一般高齢者では59.1%、要支援認定者・事業対象者では57.4%となっています。



### ③終末期に望む医療

※要介護認定者のみ

「自宅での医療を基本とし、必要があれば入院したい」が36.1%と最も多く、次いで「自宅で通院や往診による医療を受けたい」が18.1%、「老人ホームなどの施設で医療や介護を受けたい」が15.9%となっています。

